自治会に関するアンケート調査報告書

令和７年９月
袖ケ浦市市民協働推進課

第１章　調査の概要

- 調査目的
- 調査対象
- 調査期間
- 調査方法
- 設問構成
- 回答結果

第２章　回答者属性（Q1～Q9）

- Q1　年代
- Q2　性別（任意）
- Q3　居住地区
- Q3-1　居住地区（大字別）
- Q4　居住形態
- Q5　世帯主区分
- Q6　世帯構成
- Q7　居住年数
- Q8　就労状況
- Q9　自治会加入状況

第３章　属性別の加入状況（Q9）

- Q9×Q1　年代別の加入状況
- Q9×Q3　居住地区別の加入状況
- Q9×Q4　居住形態別の加入状況
- Q9×Q6　世帯構成別の加入状況
- Q9×Q7　居住年数別の加入状況
- Q9×Q8　就労状況別の加入状況

第４章　活動参加の実態（Q10･Q12～Q13）

- Q10　役職経験の有無
- Q12　活動参加状況
- Q12×Q1　年代別の参加頻度
- Q12×Q6　世帯構成別の参加頻度

- Q12×Q7 居住年数別の参加頻度
- Q12×Q8 就労状況別の参加頻度
- Q12×Q10 役職経験別の参加頻度
- Q13 参加した活動【複数回答】

第５章 メリット・負担・継続（Q14〜Q16）

- Q14 自治会に加入して良かったこと【複数回答】
- Q14×Q6 世帯構成別の良かったこと
- Q14×Q12 参加頻度別の良かったこと
- Q15 自治会の負担感【複数回答】
- Q15×Q6 世帯構成別の負担項目
- Q15×Q8 就労状況別の負担項目
- Q15×Q10 役職経験別の負担項目
- Q16 加入継続理由
- Q15×Q16 負担項目別の加入継続理由

第６章 未加入の実態と背景（Q18〜Q20）

- Q18 未加入理由
- Q18×Q3 居住地区別の未加入理由
- Q18×Q4 居住形態別の未加入理由
- Q18×Q7 居住年数別の未加入理由
- Q19 自治会が地域で果たす役割【複数回答】
- Q20 役割が果たされない場合の影響

第７章 期待と評価（Q17）

- Q17 自治会が担うべき役割【複数回答】
- Q17×Q12 期待役割と参加頻度
- Q17 と Q19 の比較

第８章 望ましい自治会像・加入動機（Q11･Q21〜Q22）

- Q11 加入のきっかけ
- Q11×Q1 年代別の加入きっかけ
- Q21 加入（参加）したい自治会の条件【複数回答】
- Q21×Q6 世帯構成別の求める条件

- Q21×Q8 就労状況別の求める条件
- Q22 自治会加入につながる要因【複数回答】
- Q22×Q12 加入要因別の参加頻度

第９章 自由記述の総括（Q23）

- Q23 自治会に関する意見・要望・提案

第１０章 総合まとめ

- １　調査の背景と意義
- ２　加入状況とその背景
- ３　未加入者の実態と認識
- ４　活動参加の実態と負担感
- ５　期待される役割と評価の差異
- ６　意見・要望にみる改善方向
- ７　総括
- ８　今後の活用
- ９　結び

付録

- アンケート調査票

第１章 調査の概要

＜調査目的＞

自治会は地域社会において、防災・防犯活動、住民同士の支援、地域課題の解決など、多岐にわたる役割を担っている。しかし近年、少子高齢化やライフスタイルの多様化、地域への関心の変化を背景に、自治会の活動及び加入状況に関する課題が顕在化している。自治会活動への参加が当たり前でなくなってきた現状を踏まえ、自治会においては今後の活動の見直しが求められるとともに、市としてもその実態を的確に把握し、今後の地域コミュニティ施策に反映させる必要がある。

本調査では、自治会の加入世帯減少の現状とその背景、要因を明らかにし、住民の加入状況や活動参加の実態、未加入や退会の理由、自治会に対する期待や負担意識、改善に向けた提案などを多角的に収集・分析するとともに、自治会の意義や役割に対する住民の理解を促し再認識の契機とすることで、参加しやすい地域活動のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

＜調査対象＞

市内在住の１８歳以上の方（自治会への加入・未加入を問わない）

＜調査期間＞

令和７年５月２６日（月）から７月４日（金）まで

＜調査方法＞

Web フォームによる電子回答（自治会回覧、広報そでがうら、ホームページ、LINE、X により周知）

※電子回答が難しい場合に限り、市民協働推進課及び各交流センターに設置したアンケート調査票による回答を受付

＜設問構成＞

本調査の設問は、以下の４区分で構成

・属性設問（Q1～Q9）：回答者の基本情報
・加入者向け設問（Q10～Q17）：活動経験、メリット、負担など
・未加入者向け設問（Q18～Q20）：未加入理由、役割認識など
・共通設問（Q21～Q23）：望ましい自治会像、加入動機、自由意見

＜回答結果＞

１，３４３人（電子：１，３４１人／紙：２人）

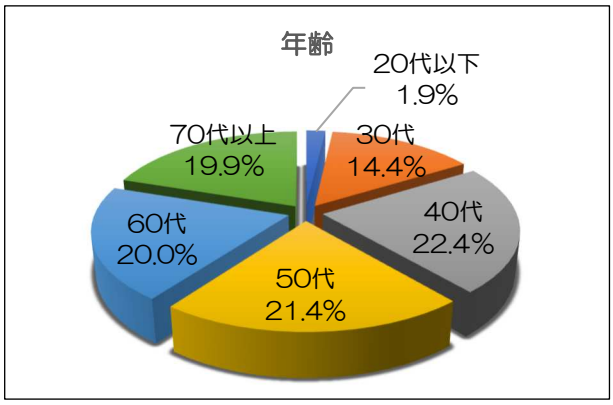
【表記上の注意】

本報告書に示す割合は、表示単位未満を四捨五入しています。このため、計算の積み上げが 100.0%にならない場合があります。

第２章　回答者属性（Q1～Q9）

Q1　年代

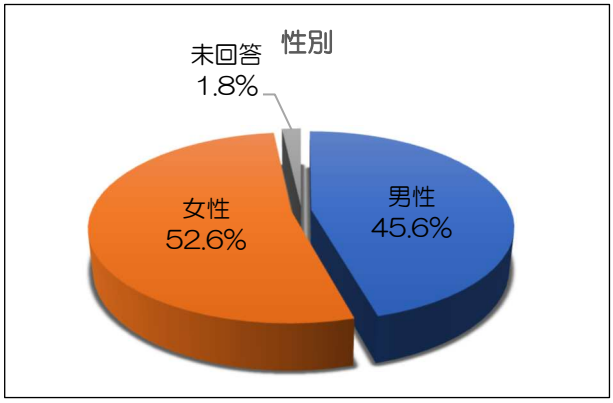
	人数	割合
20 代以下	25 人	1.9%
30 代	193 人	14.4%
40 代	302 人	22.4%
50 代	288 人	21.4%
60 代	268 人	20.0%
70 代以上	267 人	19.9%
合計	1,343 人	100.0%



回答者は４０代～７０代が中心で、全体の８割以上を占めている。一方で、２０代以下は２５人（１.９％）にとどまり、３０代も比較的少数であった。

Q2　性別（任意）

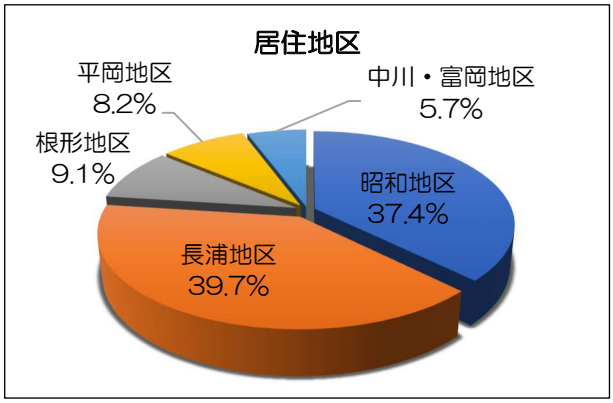
	人数	割合
男性	613 人	45.6%
女性	706 人	52.6%
未回答	24 人	1.8%
合計	1,343 人	100.0%



回答者は男性よりも女性がやや多かった。

Q3　居住地区

	人数	割合
昭和地区	502 人	37.4%
長浦地区	533 人	39.7%
根形地区	122 人	9.1%
平岡地区	110 人	8.2%
中川・富岡地区	76 人	5.7%
合計	1,343 人	100.0%

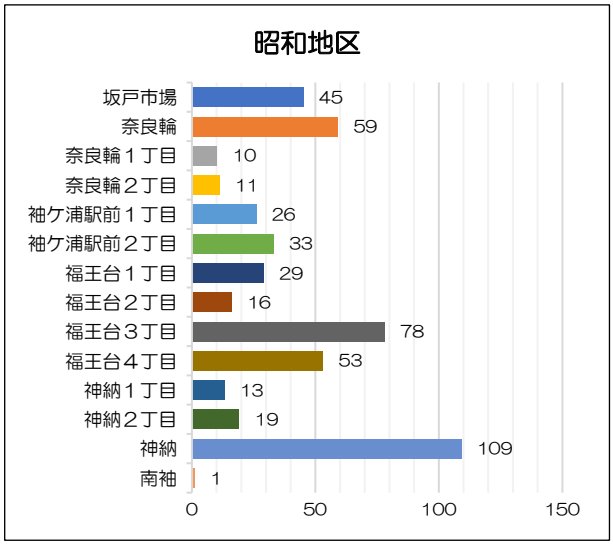


回答者は昭和地区と長浦地区が中心で、全体の約８割を占めている。

Q3-1 居住地区（大字別）

≪昭和地区≫

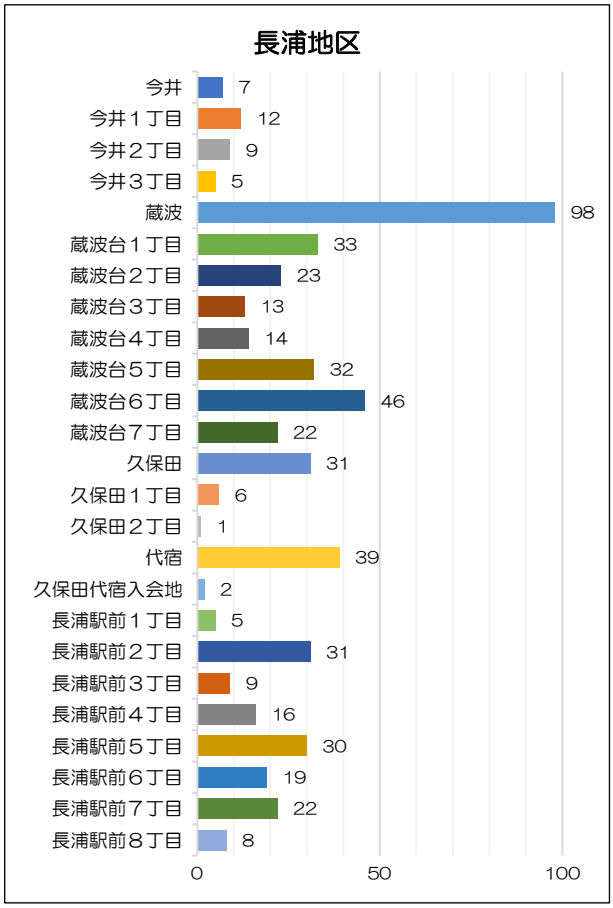
	人数	割合
坂戸市場	45 人	9.0%
奈良輪	59 人	11.8%
奈良輪１丁目	10 人	2.0%
奈良輪２丁目	11 人	2.0%
袖ケ浦駅前１丁目	26 人	5.2%
袖ケ浦駅前２丁目	33 人	6.6%
福王台１丁目	29 人	5.8%
福王台２丁目	16 人	3.2%
福王台３丁目	78 人	15.5%
福王台４丁目	53 人	10.6%
神納１丁目	13 人	2.6%
神納２丁目	19 人	3.8%
神納	109 人	21.7%
南袖	1 人	0.2%
合計	502 人	100.0%



昭和地区では、「神納」と「福王台３丁目」が多く、両者で約４割を占めている。
そのほか「奈良輪」や「福王台４丁目」などからも一定数の回答があった。

≪長浦地区≫

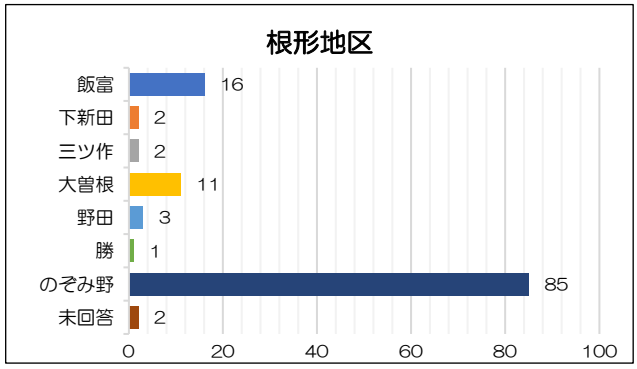
	人数	割合
今井	7 人	1.3%
今井１丁目	12 人	2.3%
今井２丁目	9 人	1.7%
今井３丁目	5 人	0.9%
蔵波	98 人	18.4%
蔵波台１丁目	33 人	6.2%
蔵波台２丁目	23 人	4.3%
蔵波台３丁目	13 人	2.4%
蔵波台４丁目	14 人	2.6%
蔵波台５丁目	32 人	6.0%
蔵波台６丁目	46 人	8.6%
蔵波台７丁目	22 人	4.1%
久保田	31 人	5.8%
久保田１丁目	6 人	1.1%
久保田２丁目	1 人	0.2%
代宿	39 人	7.3%
久保田代宿入会地	2 人	0.4%
長浦駅前１丁目	5 人	0.9%
長浦駅前２丁目	31 人	5.8%
長浦駅前３丁目	9 人	1.7%
長浦駅前４丁目	16 人	3.0%
長浦駅前５丁目	30 人	5.6%
長浦駅前６丁目	19 人	3.6%
長浦駅前７丁目	22 人	4.1%
長浦駅前８丁目	8 人	1.5%
合計	533 人	100.0%



長浦地区では、「蔵波」が最も多く、その他からも幅広く回答が寄せられた。

≪根形地区≫

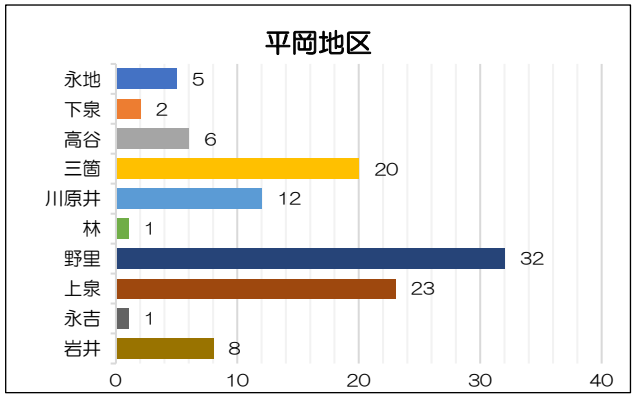
	人数	割合
飯富	16 人	13.1%
下新田	2 人	1.6%
三ツ作	2 人	1.6%
大曽根	11 人	9.0%
野田	3 人	2.5%
勝	1 人	0.8%
のぞみ野	85 人	69.7%
未回答	2 人	1.6%
合計	122 人	100.0%



根形地区では、約７割が「のぞみ野」で回答の大半を占めた。

≪平岡地区≫

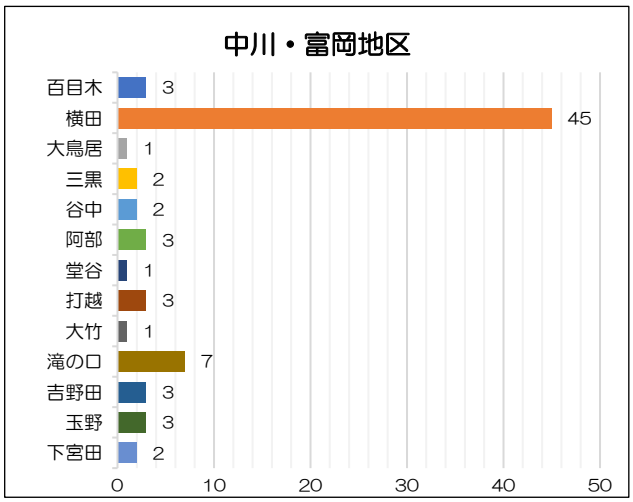
	人数	割合
永地	5 人	4.5%
下泉	2 人	1.8%
高谷	6 人	5.5%
三箇	20 人	18.2%
川原井	12 人	10.9%
林	1 人	0.9%
野里	32 人	29.1%
上泉	23 人	20.9%
永吉	1 人	0.9%
岩井	8 人	7.3%
合計	110 人	100.0%



平岡地区では、「野里」を中心に、「上泉」や「三箇」からも比較的多くの回答があった。

≪中川・富岡地区≫

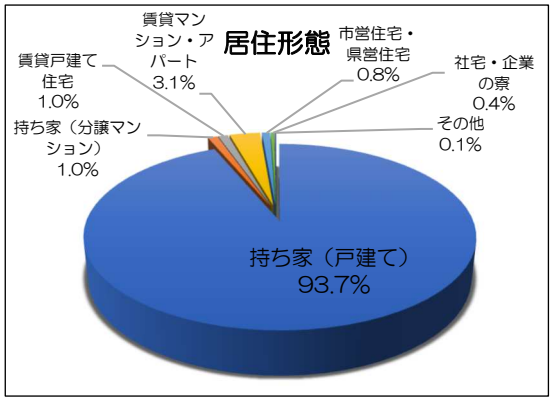
	人数	割合
百目木	3 人	3.9%
横田	45 人	59.2%
大鳥居	1 人	1.3%
三黒	2 人	2.6%
谷中	2 人	2.6%
阿部	3 人	3.9%
堂谷	1 人	1.3%
打越	3 人	3.9%
大竹	1 人	1.3%
滝の口	7 人	9.2%
吉野田	3 人	3.9%
玉野	3 人	3.9%
下宮田	2 人	2.6%
合計	76 人	100.0%



中川・富岡地区では、「横田」が全体の約６割を占めた。一方で、その他からはいずれも少数にとどまっている。

Q4 居住形態

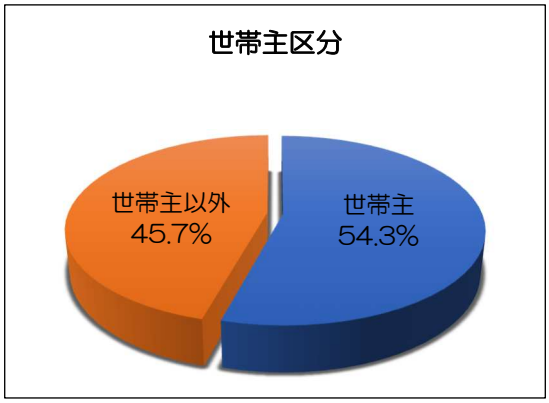
	人数	割合
持ち家（戸建て）	1,258 人	93.7%
持ち家（分譲マンション）	13 人	1.0%
賃貸戸建て住宅	13 人	1.0%
賃貸マンション・アパート	41 人	3.1%
市営住宅・県営住宅	11 人	0.8%
社宅・企業の寮	5 人	0.4%
その他 ・身内所有の住宅 ・回答を辞退	2 人	0.1%
合計	1,343 人	100.0%



回答者の大半は持ち家（戸建て）で、全体の 9 割を超えている。賃貸や公営住宅、社宅などは少数となっている。

Q5 世帯主区分

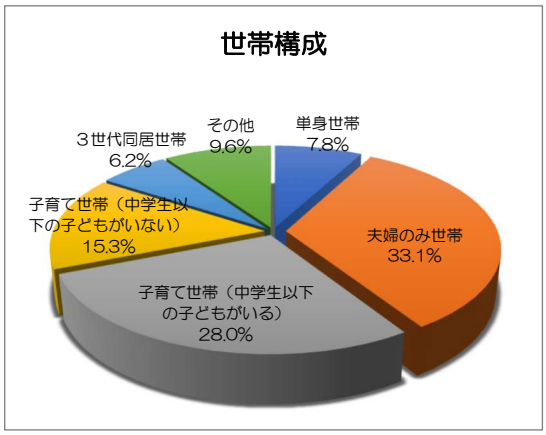
	人数	割合
世帯主	729 人	54.3%
世帯主以外	614 人	45.7%
合計	1,343 人	100.0%



回答者は世帯主が過半数を占める一方で、世帯主以外からの回答も 4 割を超えている。

Q6 世帯構成

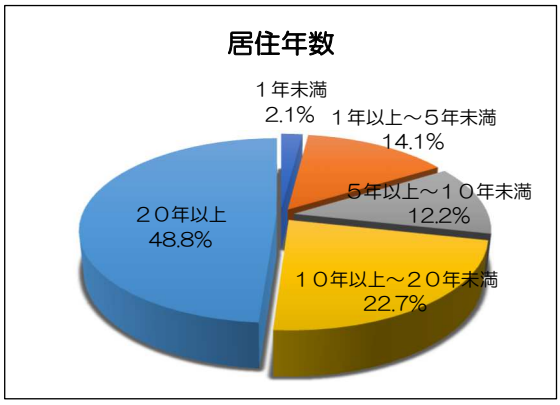
	人数	割合
単身世帯	105 人	7.8%
夫婦のみ世帯	445 人	33.1%
子育て世帯 （中学生以下の子どもがいる）	376 人	28.0%
子育て世帯 （中学生以下の子どもがいない）	205 人	15.3%
3 世代同居世帯	83 人	6.2%
その他 ・親と同居 ・兄弟姉妹と同居 ・夫婦と社会人の子ども　など	129 人	9.6%
合計	1,343 人	100.0%



回答者は「夫婦のみ世帯」と「子育て世帯（中学生以下の子どもがいる）」が中心で、あわせて 6 割を超えている。

Q7 居住年数

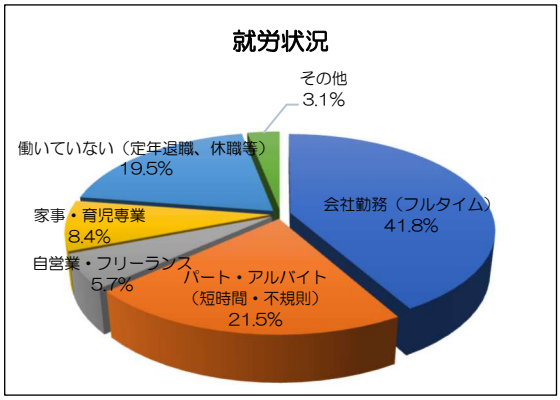
	人数	割合
１年未満	28 人	2.1%
１年以上～５年未満	190 人	14.1%
５年以上～１０年未満	164 人	12.2%
１０年以上～２０年未満	305 人	22.7%
２０年以上	656 人	48.8%
合計	1,343 人	100.0%



回答者は「２０年以上」が最も多く、全体の約半数を占めている。一方で、「１年未満」の新しい住民層からの回答は少なかった。

Q8 就労状況

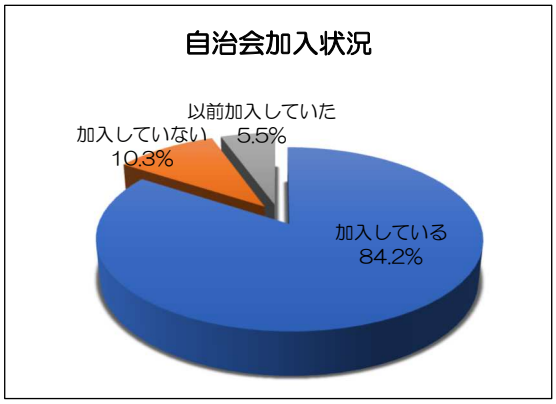
	人数	割合
会社勤務（フルタイム）	561 人	41.8%
パート・アルバイト（短時間・不規則）	289 人	21.5%
自営業・フリーランス	77 人	5.7%
家事・育児専業	113 人	8.4%
働いていない（定年退職・休職等）	262 人	19.5%
その他 ・内職、在宅ワーク ・家族の介護 ・学生　など	41 人	3.1%
合計	1,343 人	100.0%



回答者は「会社勤務（フルタイム）」が最も多く、４割を超えている。そのほか「パート・アルバイト」や「働いていない」層からも一定数の回答があった。

Q9 自治会加入状況

	人数	割合
加入している	1,131 人	84.2%
加入していない	138 人	10.3%
以前加入していた	74 人	5.5%
合計	1,343 人	100.0%

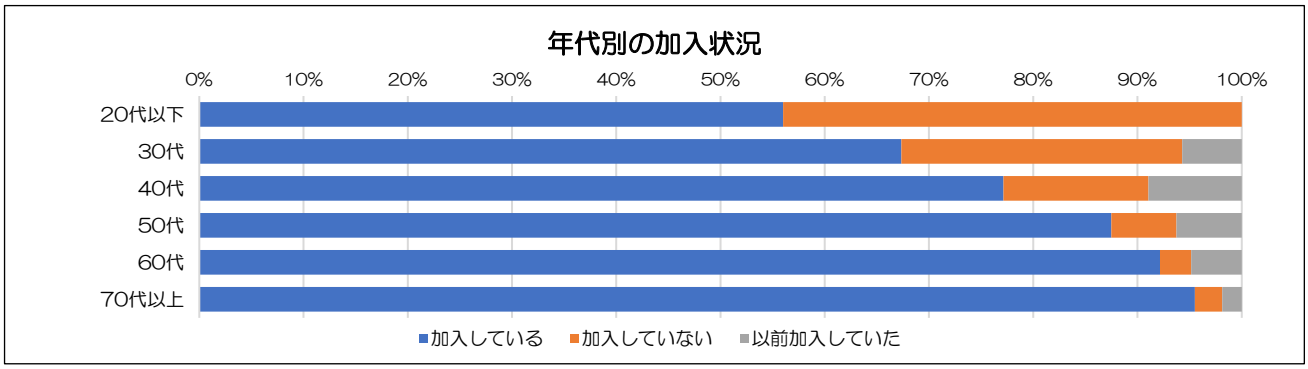


回答者の大半は自治会に加入しており、全体の８割を超えている。一方で、以前加入していたとする回答も一定数みられた。

第３章　属性別の加入状況（Q9）

Q9×Q1　年代別の加入状況

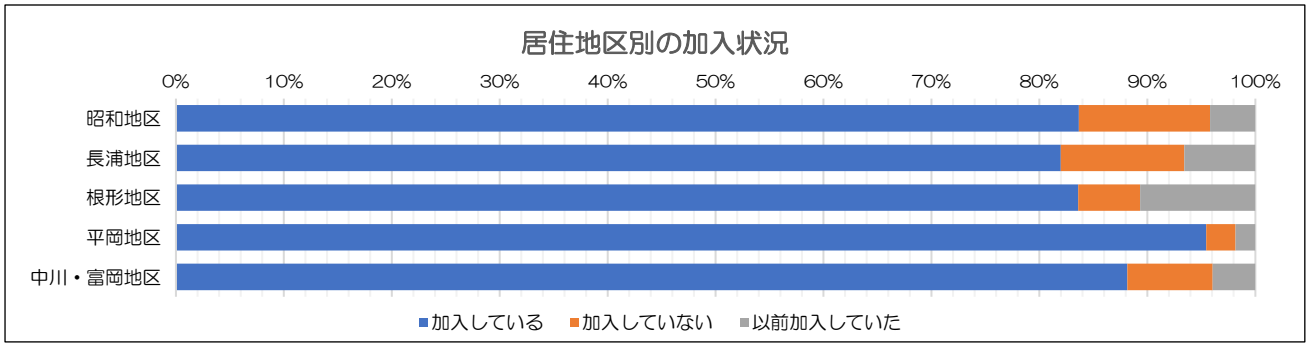
	加入	未加入	以前加入	合計
20 代以下	14 人	11 人	0 人	25 人
30 代	130 人	52 人	11 人	193 人
40 代	233 人	42 人	27 人	302 人
50 代	252 人	18 人	18 人	278 人
60 代	247 人	8 人	13 人	268 人
70 代以上	255 人	7 人	5 人	267 人
合計	1,131 人	138 人	74 人	1,343 人



加入率は年代が上がるほど高く、６０代以上は９割を超えている。４０代も約８割が加入しているが、退会者も多い。一方で、２０代以下や３０代では未加入の割合が相対的に多い。

Q9×Q3　居住地区別の加入状況

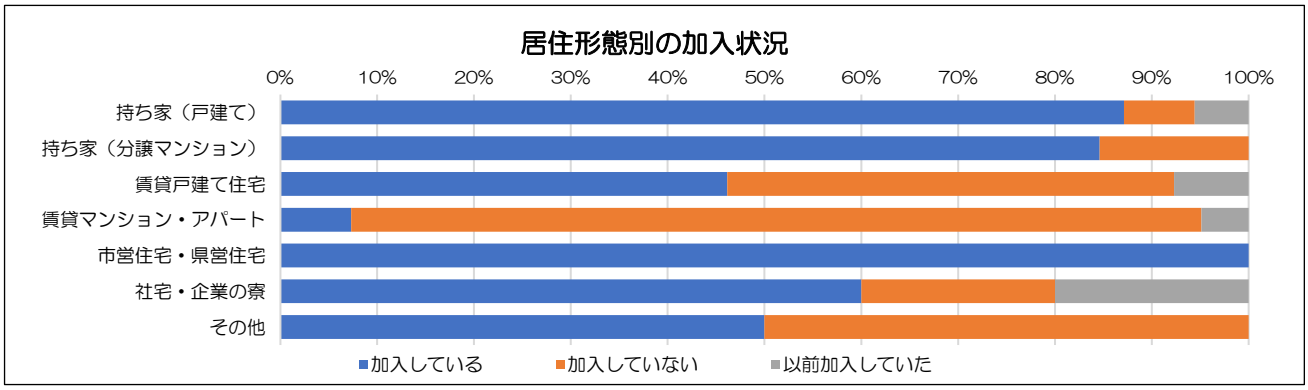
	加入	未加入	以前加入	合計
昭和地区	420 人	61 人	21 人	502 人
長浦地区	437 人	61 人	35 人	533 人
根形地区	102 人	7 人	13 人	122 人
平岡地区	105 人	3 人	2 人	110 人
中川・富岡地区	67 人	6 人	3 人	76 人
合計	1,131 人	138 人	74 人	1,343 人



いずれの地区でも自治会加入者が多数を占めていた。平岡地区や中川・富岡地区では「未加入」「以前加入」が少なく、根形では「以前加入」の割合が最も高かった。昭和地区や長浦地区では「未加入」の割合が他地区よりやや高い傾向にある。

Q9×Q4 居住形態別の加入状況

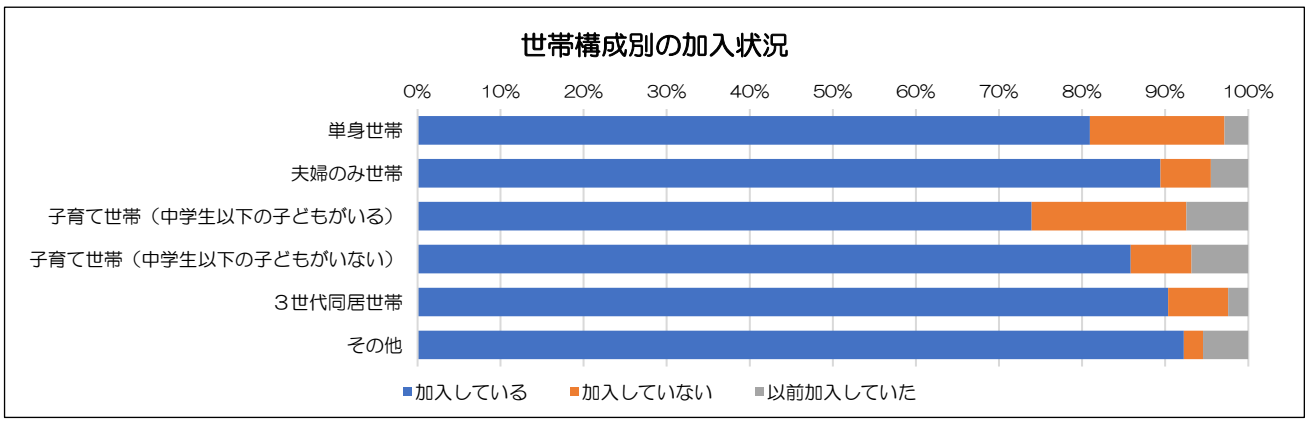
	加入	未加入	以前加入	合計
持ち家（戸建て）	1,096 人	92 人	70 人	1,258 人
持ち家（分譲マンション）	11 人	2 人	0 人	13 人
賃貸戸建て住宅	6 人	6 人	1 人	13 人
賃貸マンション・アパート	3 人	36 人	2 人	41 人
市営住宅・県営住宅	11 人	0 人	0 人	11 人
社宅・企業の寮	3 人	1 人	1 人	5 人
その他	1 人	1 人	0 人	2 人
合計	1,131 人	138 人	74 人	1,343 人



持ち家（戸建て）では、加入率が非常に高く、８割を超えている。一方、賃貸マンション・アパートは加入率が極めて低く、未加入が中心となっている。

Q9×Q6 世帯構成別の加入状況

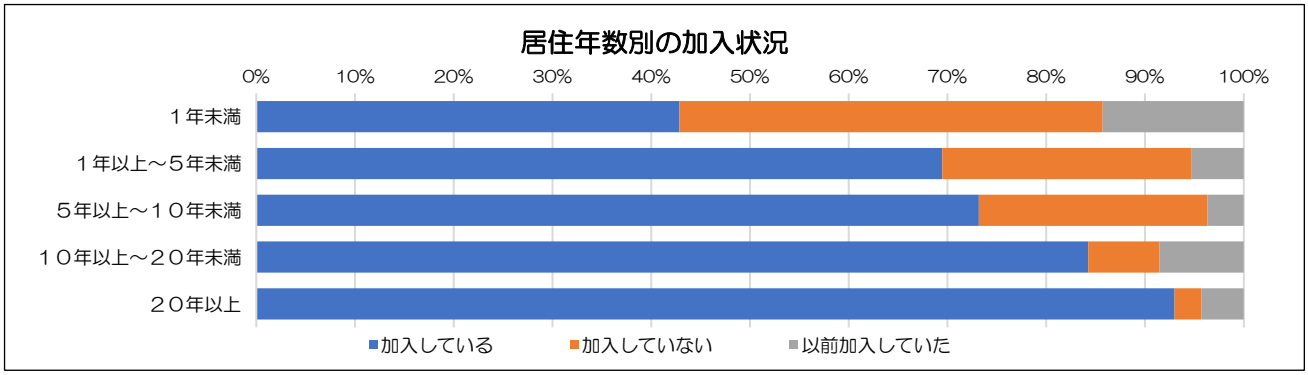
	加入	未加入	以前加入	合計
単身世帯	85 人	17 人	3 人	105 人
夫婦のみ世帯	398 人	27 人	20 人	445 人
子育て世帯（中学生以下の子どもがいる）	278 人	70 人	28 人	376 人
子育て世帯（中学生以下の子どもがいない）	176 人	15 人	14 人	205 人
３世代同居世帯	75 人	6 人	2 人	83 人
その他	119 人	3 人	7 人	129 人
合計	1,131 人	138 人	74 人	1,343 人



３世代同居世帯や夫婦のみ世帯は加入率が約９割と高い水準にある。一方で、子育て世帯（特に中学生以下の子どもがいる世帯）は加入率が約７割にとどまり、未加入が比較的多い。単身世帯も加入率は約８割と、他の世帯構成と比べてやや低い傾向がみられる。

Q9×Q7 居住年数別の加入状況

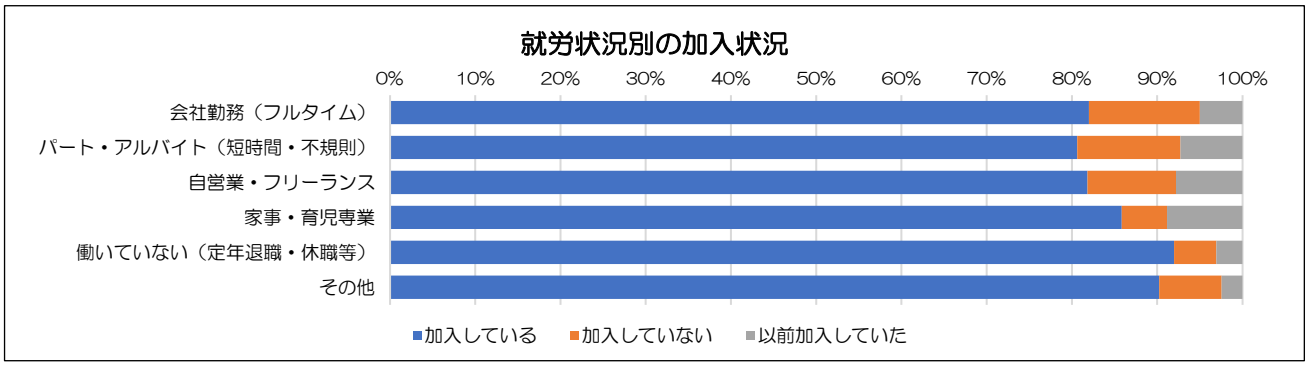
	加入	未加入	以前加入	合計
１年未満	12 人	12 人	4 人	28 人
１年以上～５年未満	132 人	48 人	10 人	190 人
５年以上～１０年未満	120 人	38 人	6 人	164 人
１０年以上～２０年未満	257 人	22 人	26 人	305 人
２０年以上	610 人	18 人	28 人	656 人
合計	1,131 人	138 人	74 人	1,343 人



２０年以上では加入率が９割を超えて最も高く、１０年以上～２０年未満でも８割を超えている。一方で、１年以上～１０年未満の層では加入率が約７割にとどまり、未加入が比較的多い。特に１年未満では加入率が約４割にとどまっている。

Q9×Q8 就労状況別の加入状況

	加入	未加入	以前加入	合計
会社勤務（フルタイム）	460 人	73 人	28 人	561 人
パート・アルバイト（短時間・不規則）	233 人	35 人	21 人	289 人
自営業・フリーランス	63 人	8 人	6 人	77 人
家事・育児専業	97 人	6 人	10 人	113 人
働いていない（定年退職・休職等）	241 人	13 人	8 人	262 人
その他	37 人	3 人	1 人	41 人
合計	1,131 人	138 人	74 人	1,343 人

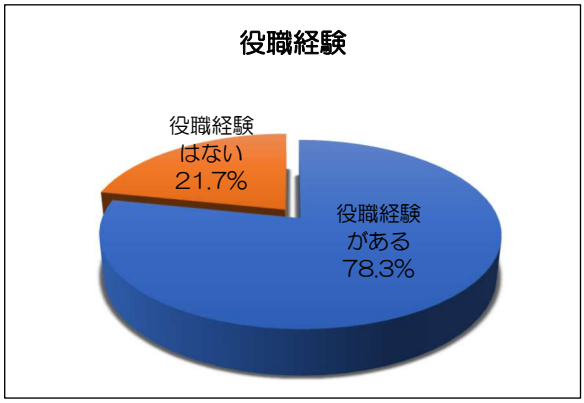


働いていない層は加入率が９割を超えており、特に高い水準となっている。家事・育児専業も約９割であり、加入者が多数を占めている。会社勤務（フルタイム）、パート・アルバイト、自営業・フリーランスは約２割が加入していない。

第４章 活動参加の実態（Q12～Q13）

Q10 役職経験の有無

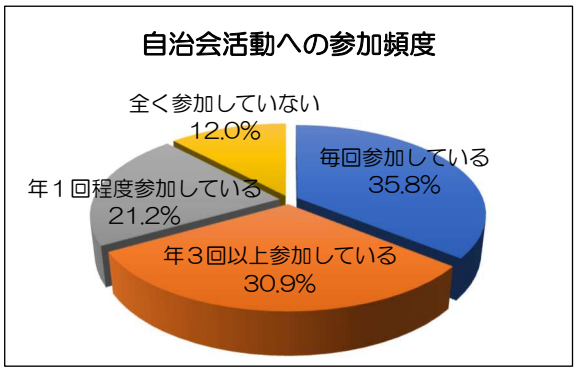
	人数	割合
役職経験がある	886 人	78.3%
役職経験はない	245 人	21.7%
合計	1,131 人	100.0%



回答者の多くは役職経験があり、全体の約８割を占めている。

Q12 活動参加頻度

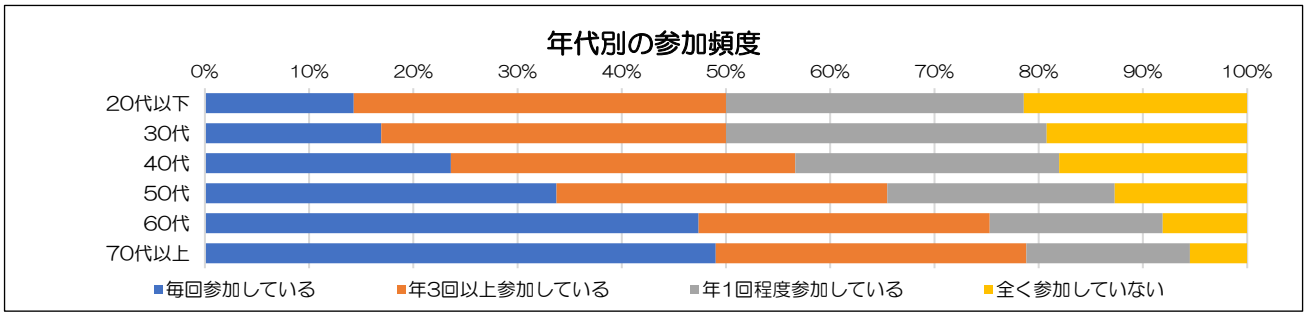
	人数	割合
毎回参加している	405 人	35.8%
年３回以上参加している	350 人	30.9%
年１回程度参加している	240 人	21.2%
全く参加していない	136 人	12.0%
合計	1,131 人	100.0%



「毎回参加」と「年３回以上参加」を合わせると６割を超えており、多くが継続的に参加している。一方で「全く参加していない」人も約１割いる。

Q12×Q1 年代別の参加頻度

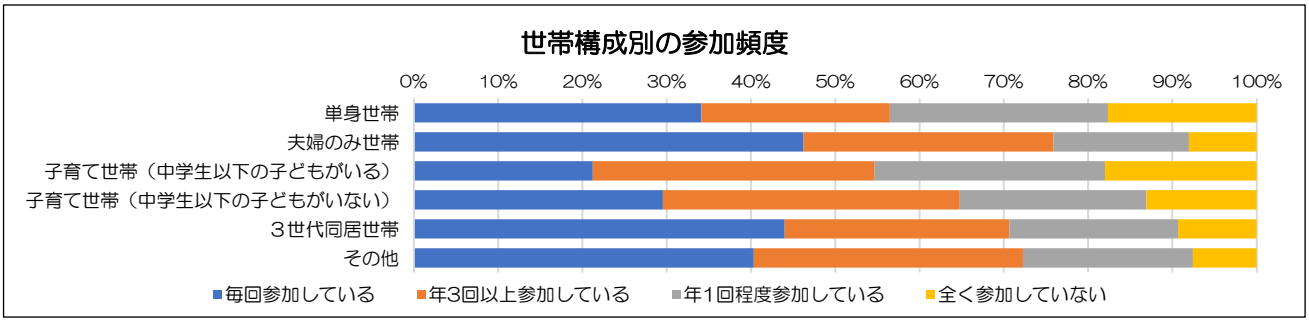
	毎回参加している	年 3 回以上参加している	年 1 回程度参加している	全く参加していない	合計
20 代以下	2 人	5 人	4 人	3 人	14 人
30 代	22 人	43 人	40 人	25 人	130 人
40 代	54 人	77 人	60 人	42 人	233 人
50 代	85 人	80 人	55 人	32 人	252 人
60 代	117 人	69 人	41 人	20 人	247 人
70 代以上	125 人	76 人	40 人	14 人	255 人
合計	405 人	350 人	240 人	136 人	1,131 人



年代が上がるほど参加が活発で、５０代以上では「毎回参加」が最も多い。一方で、２０代以下や３０代では参加頻度が低く、「全く参加していない」割合も相対的に高い。

Q12×Q6 世帯構成別の参加頻度

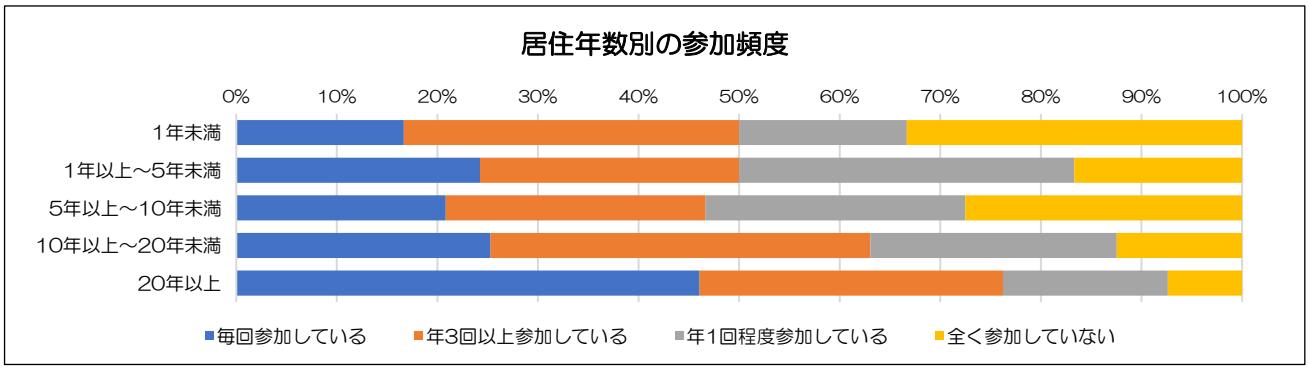
	毎回参加している	年 3 回以上参加している	年 1 回程度参加している	全く参加していない	合計
単身世帯	29 人	19 人	22 人	15 人	85 人
夫婦のみ世帯	184 人	118 人	64 人	32 人	398 人
子育て世帯（中学生以下の子どもがいる）	59 人	93 人	76 人	50 人	278 人
子育て世帯（中学生以下の子どもがいない）	52 人	62 人	39 人	23 人	176 人
３世代同居世帯	33 人	20 人	15 人	7 人	75 人
その他	48 人	38 人	24 人	9 人	119 人
合計	405 人	350 人	240 人	136 人	1,131 人



夫婦のみ世帯は参加が最も多く、「毎回参加」が４割を超えている。一方で、子育て世帯と単身世帯では、「全く参加していない」が約２割と比較的高く、参加頻度も低めとなっている。

Q12×Q7 居住年数別の参加頻度

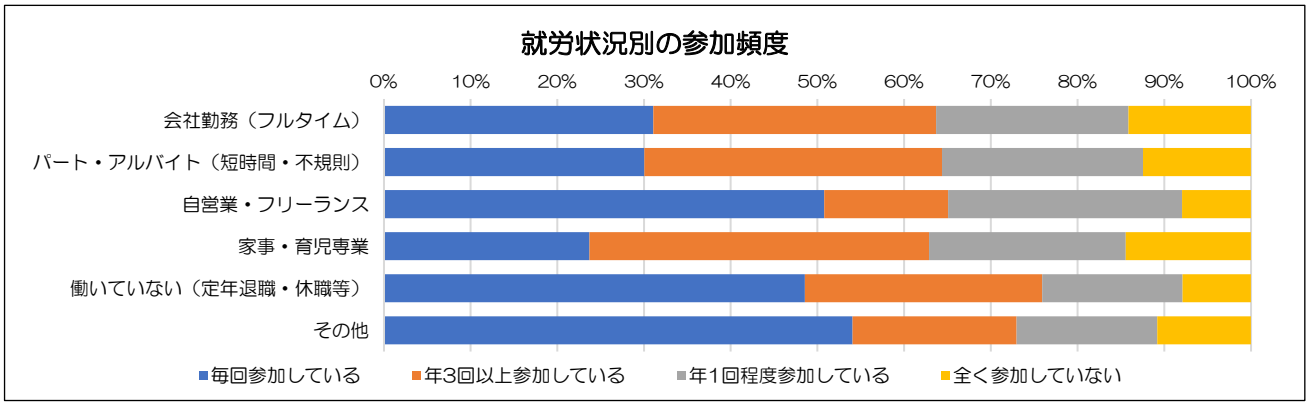
	毎回参加している	年 3 回以上参加している	年 1 回程度参加している	全く参加していない	合計
1 年未満	2 人	4 人	2 人	4 人	12 人
1 年以上～5 年未満	32 人	34 人	44 人	22 人	132 人
5 年以上～10 年未満	25 人	31 人	31 人	33 人	120 人
10 年以上～20 年未満	65 人	97 人	63 人	32 人	257 人
20 年以上	281 人	184 人	100 人	45 人	610 人
合計	405 人	350 人	240 人	136 人	1,131 人



２０年以上では「毎回参加」が約半数を占め、最も積極的な参加がみられる。１０年以上～２０年未満では「年３回以上参加」が約４割となり、継続的な参加が多い。一方で、１０年未満の層になるにしたがって、参加がやや低調となる傾向がみられる。

Q12×Q8 就労状況別の参加頻度

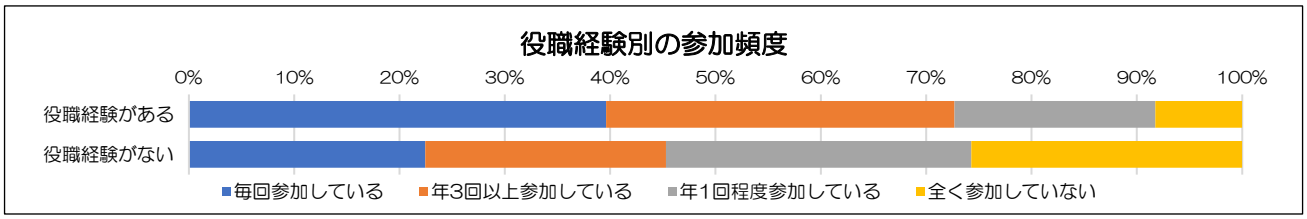
	毎回参加している	年 3 回以上参加している	年 1 回程度参加している	全く参加していない	合計
会社勤務（フルタイム）	143 人	150 人	102 人	65 人	460 人
パート・アルバイト（短時間・不規則）	70 人	80 人	54 人	29 人	233 人
自営業・フリーランス	32 人	9 人	17 人	5 人	63 人
家事・育児専業	23 人	38 人	22 人	14 人	97 人
働いていない（定年退職・休職等）	117 人	66 人	39 人	19 人	241 人
その他	20 人	7 人	6 人	4 人	37 人
合計	405 人	350 人	240 人	136 人	1,131 人



自営業と働いていない層は「毎回参加」が約５割と高く、積極的な参加がみられる。一方で、フルタイム勤務やパート・アルバイトは「毎回参加」が約３割、家事・育児専業は２割台にとどまり、「全く参加していない」も相対的に高く、参加頻度が低い。

Q12×Q10 役職経験別の参加頻度

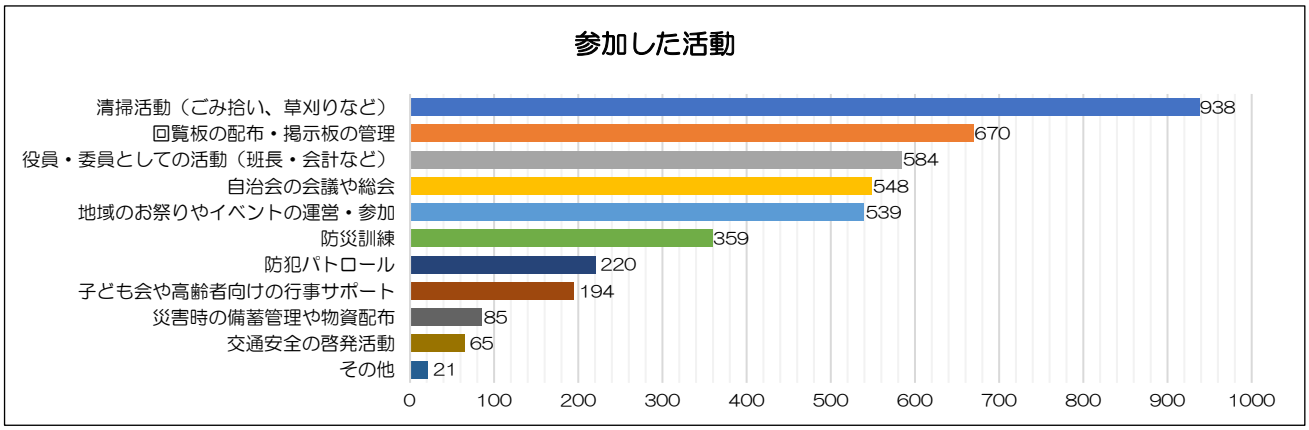
	毎回参加している	年 3 回以上参加している	年 1 回程度参加している	全く参加していない	合計
役職経験がある	351 人	294 人	168 人	73 人	886 人
役職経験がない	54 人	56 人	72 人	63 人	245 人
合計	405 人	350 人	240 人	136 人	1,131 人



役職経験がある人は「毎回参加」が 4 割を超えており、全体的に参加が活発である。一方で、役職経験がない人は「全く参加していない」が約 3 割を占め、参加頻度が低い傾向にある。

Q13 参加した活動【複数回答】

	回答数	割合
清掃活動（ごみ拾い、草刈りなど）	938 人	22.2%
回覧板の配布・掲示板の管理	670 人	15.9%
役員・委員としての活動（班長・会計など）	584 人	13.8%
自治会の会議や総会	548 人	13.0%
地域のお祭りやイベントの運営・参加	539 人	12.8%
防災訓練	359 人	8.5%
防犯パトロール	220 人	5.2%
子ども会や高齢者向けの行事サポート	194 人	4.6%
災害時の備蓄管理や物資配布	85 人	2.0%
交通安全の啓発活動	65 人	1.5%
その他 ・ごみステーションの清掃 ・会費の集金　など	21 人	0.5%
合計	4,223 人	100.0%

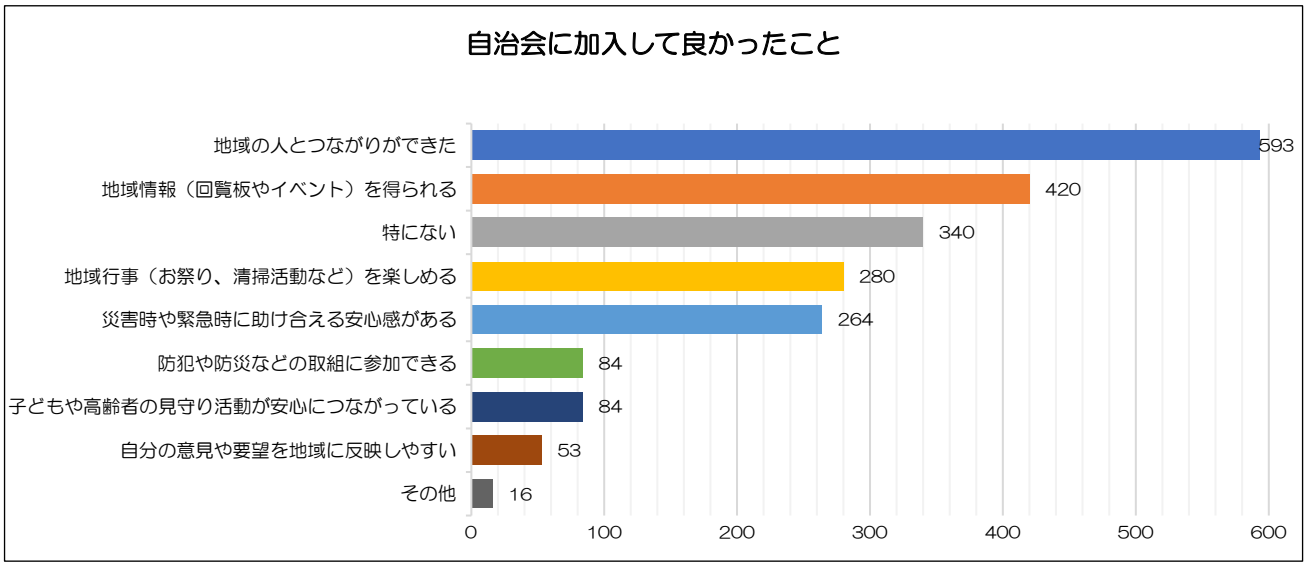


「清掃活動」が最も多く 2 割を超えており、次いで「回覧板の配布」「役員・委員としての活動」「会議や総会」「地域のお祭り・イベント」が続いている。一方で、「防災訓練」や「防犯パトロール」などは約 1 割にとどまり、「交通安全活動」や「災害時の備蓄管理」は少数であった。

第５章 メリット・負担・継続（Q14～Q16）

Q14 自治会に加入して良かったこと【複数回答】

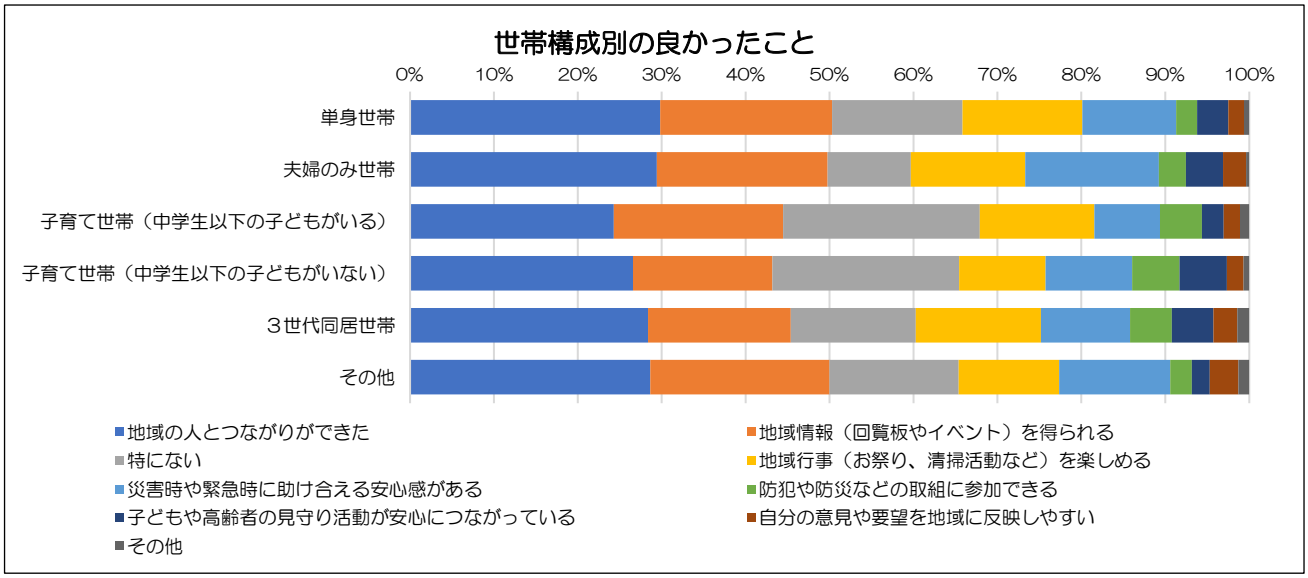
	回答数	割合
地域の人とつながりができた	593 人	27.8%
地域情報（回覧板やイベント）を得られる	420 人	19.7%
特にない	340 人	15.9%
地域行事（お祭り、清掃活動など）を楽しめる	280 人	13.1%
災害時や緊急時に助け合える安心感がある	264 人	12.4%
防犯や防災などの取組に参加できる	84 人	3.9%
子どもや高齢者の見守り活動が安心につながっている	84 人	3.9%
自分の意見や要望を地域に反映しやすい	53 人	2.5%
その他 ・ごみステーションの利用や環境維持に役立っている ・地域の様子や課題を知る機会になった ・自治会活動を通じて経験が得られた ・加入は当然であり、特に利点はない など	16 人 －	0.7% －
合計	2,134 人	100.0%



「地域の人とつながりができた」が最も多く約３割を占め、次いで「地域情報が得られる」が約２割となっている。一方で「特にない」との回答も１割を超えており、一定数はメリットを感じていない。そのほかは「地域行事を楽しめる」「災害時の安心感」などが比較的多い。

Q14×Q6 世帯構成別の良かったこと

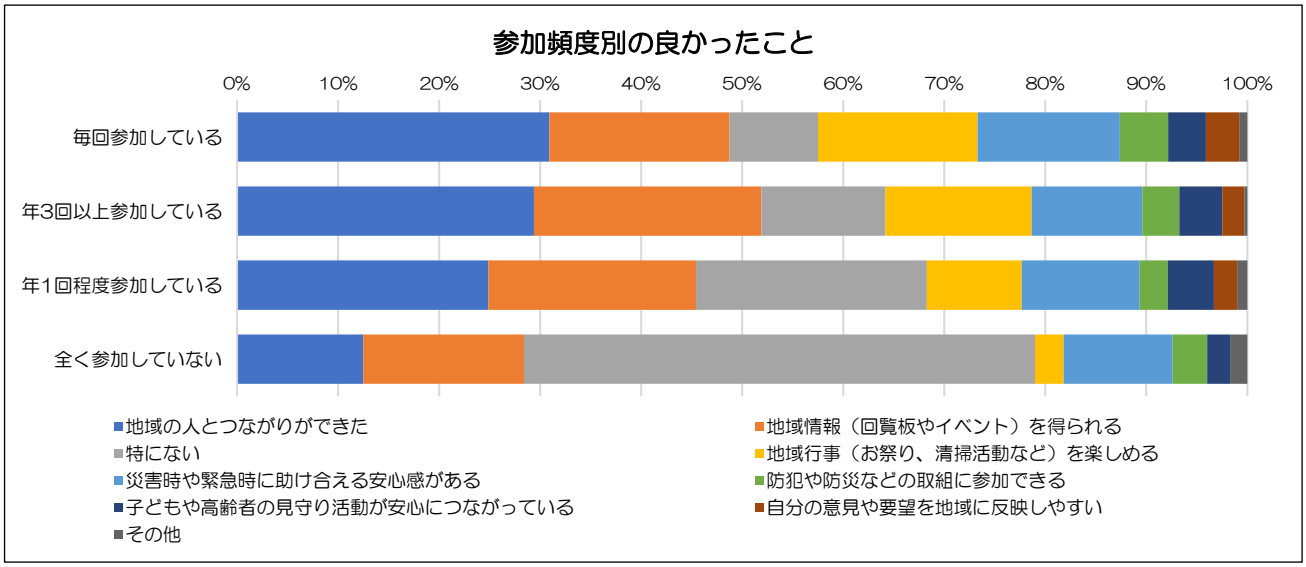
	単身世帯	夫婦のみ世帯	子育て世帯（中学生以下の子どもがいる）	子育て世帯（中学生以下の子どもがいない）	3世代同居世帯	その他	合計
地域の人とつながりができた	48 人	246 人	112 人	80 人	40 人	67 人	593 人
地域情報（回覧板やイベント）を得られる	33 人	170 人	93 人	50 人	24 人	50 人	420 人
特にない	25 人	83 人	108 人	67 人	21 人	36 人	340 人
地域行事（お祭り、清掃活動など）を楽しめる	23 人	114 人	63 人	31 人	21 人	28 人	280 人
災害時や緊急時に助け合える安心感がある	18 人	133 人	36 人	31 人	15 人	31 人	264 人
防犯や防災などの取組に参加できる	6 人	37 人	12 人	17 人	7 人	5 人	84 人
子どもや高齢者の見守り活動が安心につながっている	4 人	27 人	23 人	17 人	7 人	6 人	84 人
自分の意見や要望を地域に反映しやすい	3 人	23 人	9 人	6 人	4 人	8 人	53 人
その他	1 人	3 人	5 人	2 人	2 人	3 人	16 人
合計	161 人	836 人	461 人	301 人	141 人	234 人	2,134 人



各世帯とも最も多いのは「地域の人とつながりができた」で、約３割となっており、子育て世帯以外では「地域のつながりができた」に次いで「地域情報を得られる」となっている。子育て世帯では「特にない」が約２割と多くみられ、一方で夫婦のみ世帯では約１割と少なかった。

Q14×Q12 参加頻度別の良かったこと

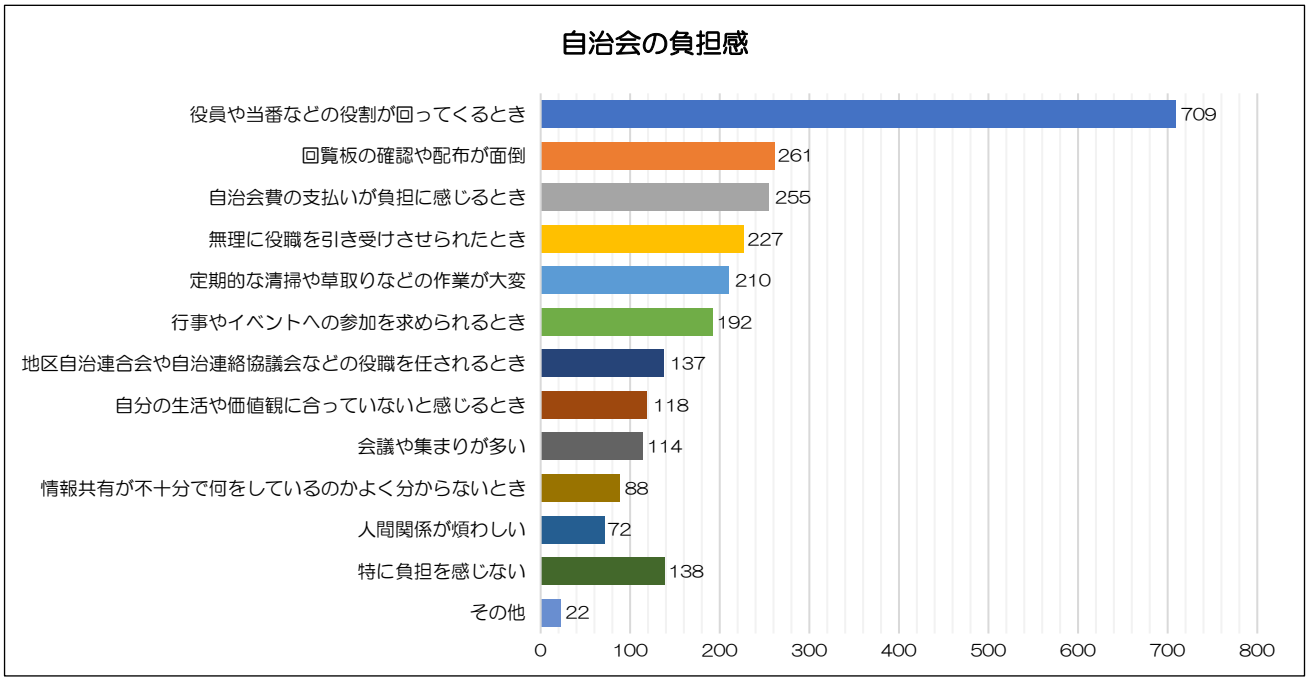
	毎回参加している	年 3 回以上参加している	年 1 回程度参加している	全く参加していない	合計
地域の人とつながりができた	272 人	201 人	98 人	22 人	593 人
地域情報（回覧板やイベント）を得られる	157 人	154 人	81 人	28 人	420 人
特にない	77 人	84 人	90 人	89 人	340 人
地域行事（お祭り、清掃活動など）を楽しめる	139 人	99 人	37 人	5 人	280 人
災害時や緊急時に助け合える安心感がある	124 人	75 人	46 人	19 人	264 人
防犯や防災などの取組に参加できる	42 人	25 人	11 人	6 人	84 人
子どもや高齢者の見守り活動が安心につながっている	33 人	29 人	18 人	4 人	84 人
自分の意見や要望を地域に反映しやすい	29 人	15 人	9 人	0 人	53 人
その他	7 人	2 人	4 人	3 人	16 人
合計	880 人	684 人	394 人	176 人	2,134 人



「毎回参加」や「年 3 回以上参加」の層では、「地域行事を楽しめる」「地域の人とつながりができた」「地域情報が得られる」が上位を占め、この 3 項目の合計が約 6 割となっており、参加による実感が幅広く得られている。一方で、「全く参加していない」層では「特にない」が約半数を占め、肯定的な実感が乏しい。ただし、一部には「地域情報が得られる」「災害時の安心感」など、活動には参加していなくても加入していること自体に価値を感じている回答も見られた。

Q15 自治会の負担感【複数回答】

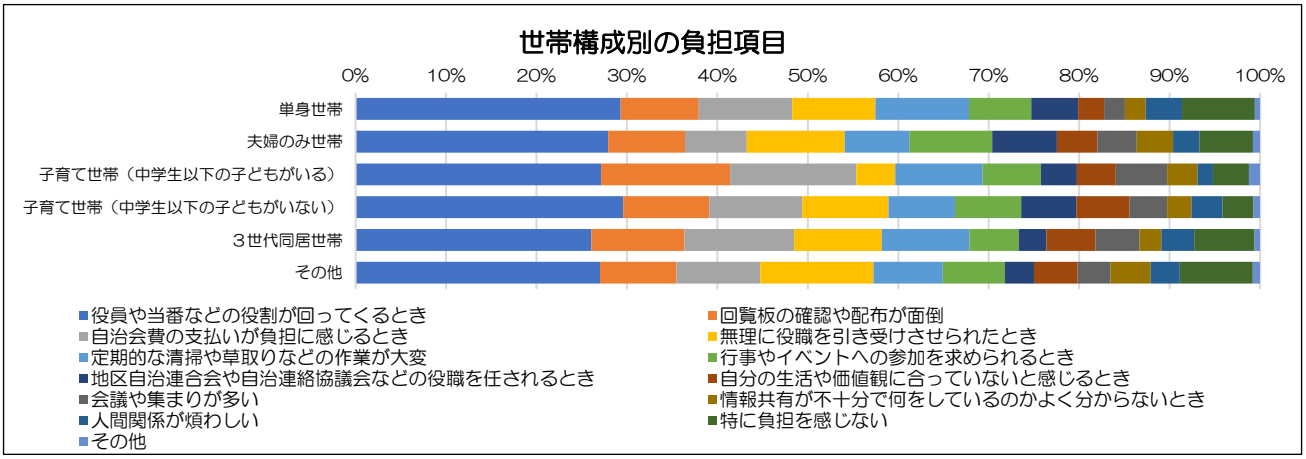
	回答数	割合
役員や当番などの役割が回ってくるとき	709 人	27.9%
回覧板の確認や配布が面倒	261 人	10.3%
自治会費の支払いが負担に感じるとき	255 人	10.0%
無理に役職を引き受けさせられたとき	227 人	8.9%
定期的な清掃や草取りなどの作業が大変	210 人	8.3%
行事やイベントへの参加を求められるとき	192 人	7.6%
地区自治連合会や自治連絡協議会などの役職を任されるとき	137 人	5.4%
自分の生活や価値観に合っていないと感じるとき	118 人	4.6%
会議や集まりが多い	114 人	4.5%
情報共有が不十分で何をしているのかよく分からないとき	88 人	3.5%
人間関係が煩わしい	72 人	2.8%
特に負担を感じない	138 人	5.4%
その他 ・自治会の目的や運営に納得できないとき ・情報伝達や手続きが煩雑・不便なとき ・行事やイベントへの対応のとき ・役員などの責任や人間関係が難しいとき ・家庭の事情で参加や対応が難しいとき など	22 人	0.9%
合計	2,543 人	100.0%



最も多いのは「役員や当番などの役割が回ってくるとき」で約３割を占め、突出している。次いで「回覧板の配布」「会費の支払い」「無理な役職の引き受け」「清掃作業」などが約１割となっている。一方で、「特に負担を感じない」も一定数みられる。

Q15×Q6 世帯構成別の負担項目

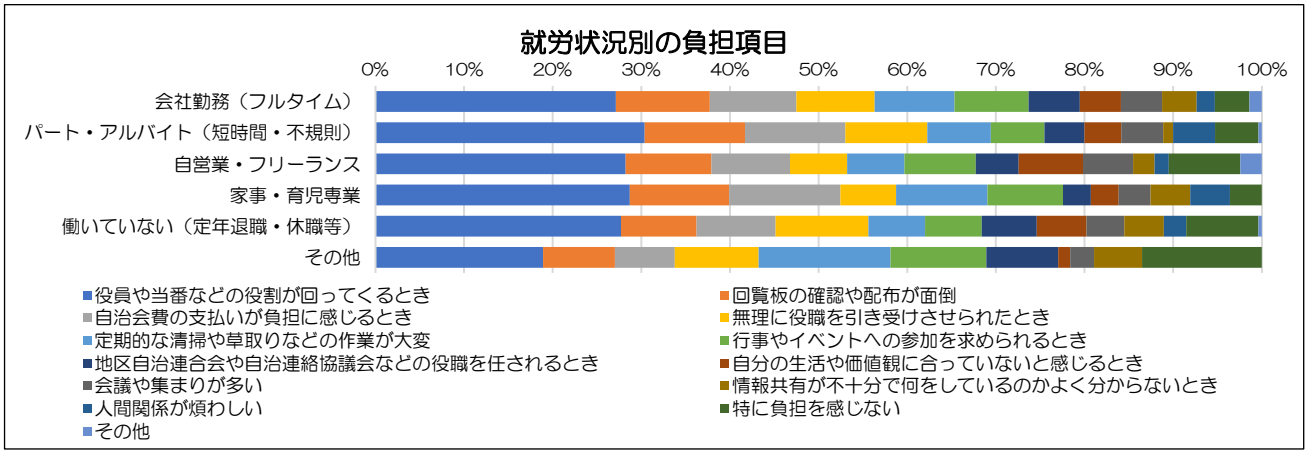
	単身世帯	夫婦のみ世帯	子育て世帯（中学生以下の子どもがいる）	子育て世帯（中学生以下の子どもがいない）	3世代同居世帯	その他	合計
役員や当番などの役割が回ってくるとき	51 人	250 人	177 人	121 人	43 人	67 人	709 人
回覧板の確認や配布が面倒	15 人	76 人	93 人	39 人	17 人	21 人	261 人
自治会費の支払いが負担に感じるとき	18 人	61 人	91 人	42 人	20 人	23 人	255 人
無理に役職を引き受けさせられたとき	16 人	97 人	28 人	39 人	16 人	31 人	227 人
定期的な清掃や草取りなどの作業が大変	18 人	64 人	63 人	30 人	16 人	19 人	210 人
行事やイベントへの参加を求められるとき	12 人	82 人	42 人	30 人	9 人	17 人	192 人
地区自治連合会や自治連絡協議会などの役職を任されるとき	9 人	64 人	26 人	25 人	5 人	8 人	137 人
自分の生活や価値観に合っていないと感じるとき	5 人	40 人	28 人	24 人	9 人	12 人	118 人
会議や集まりが多い	4 人	39 人	37 人	17 人	8 人	9 人	114 人
情報共有が不十分で何をしているのかよく分からないとき	4 人	36 人	22 人	11 人	4 人	11 人	88 人
人間関係が煩わしい	7 人	26 人	11 人	14 人	6 人	8 人	72 人
特に負担を感じない	14 人	53 人	26 人	14 人	11 人	20 人	138 人
その他	1 人	7 人	8 人	3 人	1 人	2 人	22 人
合計	174 人	895 人	652 人	409 人	165 人	248 人	2,543 人



各世帯とも最も多いのは「役員や当番などの役割が回ってくるとき」で、約３割を占めている。子育て世帯（中学生以下の子どもがいる）ではこれに加えて「回覧板の確認や配布が面倒」や「自治会費の支払いが負担に感じるとき」が約２割と比較的高く、日常的な負担感が強い傾向がみられる。

Q15×Q8 就労状況別の負担項目

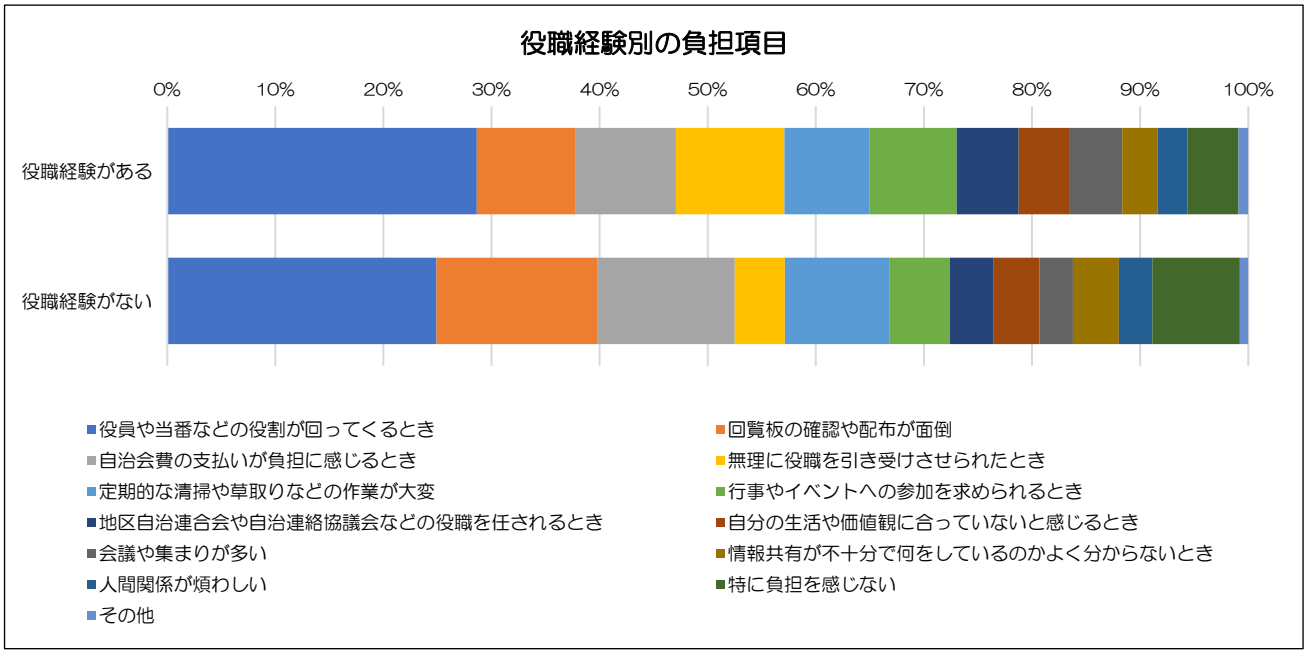
	会社勤務（フルタイム）	パート・アルバイト（短時間・不規則）	自営業・フリーランス	家事・育児専業	働いていない（定年退職・休職等）	その他	合計
役員や当番などの役割が回ってくるとき	292 人	161 人	35 人	64 人	143 人	14 人	709 人
回覧板の確認や配布が面倒	114 人	60 人	12 人	25 人	44 人	6 人	261 人
自治会費の支払いが負担に感じるとき	105 人	60 人	11 人	28 人	46 人	5 人	255 人
無理に役職を引き受けさせられたとき	95 人	49 人	8 人	14 人	54 人	7 人	227 人
定期的な清掃や草取りなどの作業が大変	97 人	38 人	8 人	23 人	33 人	11 人	210 人
行事やイベントへの参加を求められるとき	90 人	32 人	10 人	19 人	33 人	8 人	192 人
地区自治連合会や自治連絡協議会などの役職を任されるとき	62 人	24 人	6 人	7 人	32 人	6 人	137 人
自分の生活や価値観に合っていないと感じるとき	50 人	22 人	9 人	7 人	29 人	1 人	118 人
会議や集まりが多い	50 人	25 人	7 人	8 人	22 人	2 人	114 人
情報共有が不十分で何をしているのかよく分からないとき	42 人	6 人	3 人	10 人	23 人	4 人	88 人
人間関係が煩わしい	22 人	25 人	2 人	10 人	13 人	0 人	72 人
特に負担を感じない	42 人	26 人	10 人	8 人	42 人	10 人	138 人
その他	15 人	2 人	3 人	0 人	2 人	0 人	22 人
合計	1,076 人	530 人	124 人	223 人	516 人	74 人	2,543 人



各就労状況とも「役員や当番などの役割が回ってくるとき」が最も多く約３割となっている。働いていない層を除く層ではそれに次いで「回覧板」や「会費の負担」が約１割見られ、日常的な事務や費用面での負担感が共通している。

Q15×Q10 役職経験別の負担項目

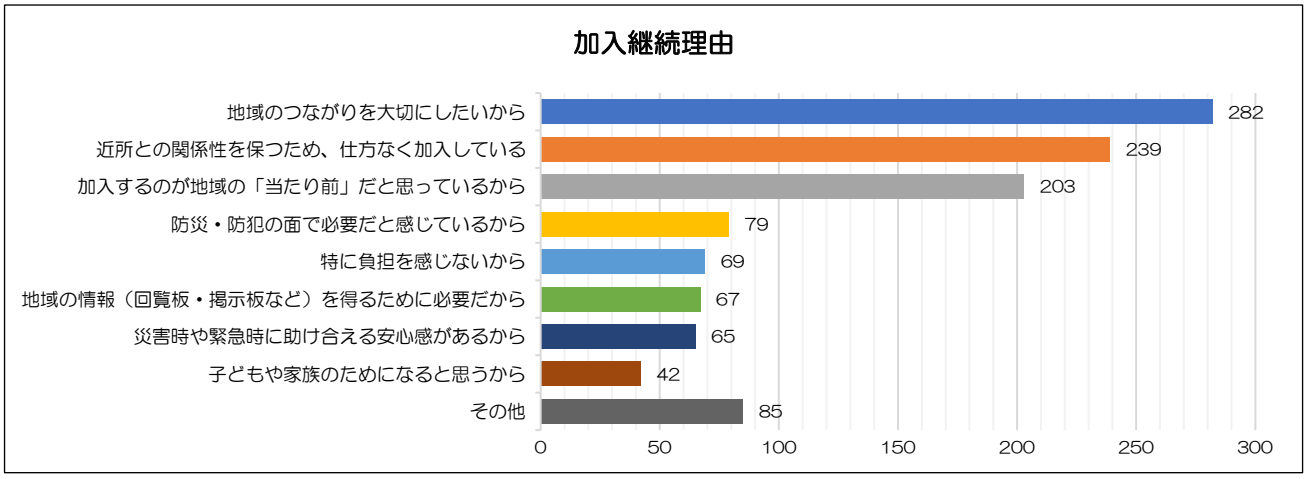
	役職経験がある	役職経験がない	合計
役員や当番などの役割が回ってくるとき	580 人	129 人	709 人
回覧板の確認や配布が面倒	184 人	77 人	261 人
自治会費の支払いが負担に感じるとき	189 人	66 人	255 人
無理に役職を引き受けさせられたとき	203 人	24 人	227 人
定期的な清掃や草取りなどの作業が大変	160 人	50 人	210 人
行事やイベントへの参加を求められるとき	163 人	29 人	192 人
地区自治連合会や自治連絡協議会などの役職を任されるとき	116 人	21 人	137 人
自分の生活や価値観に合っていないと感じるとき	96 人	22 人	118 人
会議や集まりが多い	98 人	16 人	114 人
情報共有が不十分で何をしているのかよく分からないとき	66 人	22 人	88 人
人間関係が煩わしい	56 人	16 人	72 人
特に負担を感じない	96 人	42 人	138 人
その他	18 人	4 人	22 人
合計	2,025 人	518 人	2,543 人



役職経験がある人では「役員や当番などの役割が回ってくるとき」が約３割と最も多く、加えて「無理に役職を引き受けさせられる」「会議の多さ」「上位団体の役職」が約１割を占め、役職に伴う負担感が特徴的である。一方で、役職経験がない人では役職経験がある人と同様に「役員や当番などの役割が回ってくるとき」が最多となっているが、次いで「回覧板」や「会費の負担」が多く、日常的な事務や費用面での負担が中心となっている。いずれの層でも「特に負担を感じない」が一定数みられる点も共通している。

Q16 加入継続理由

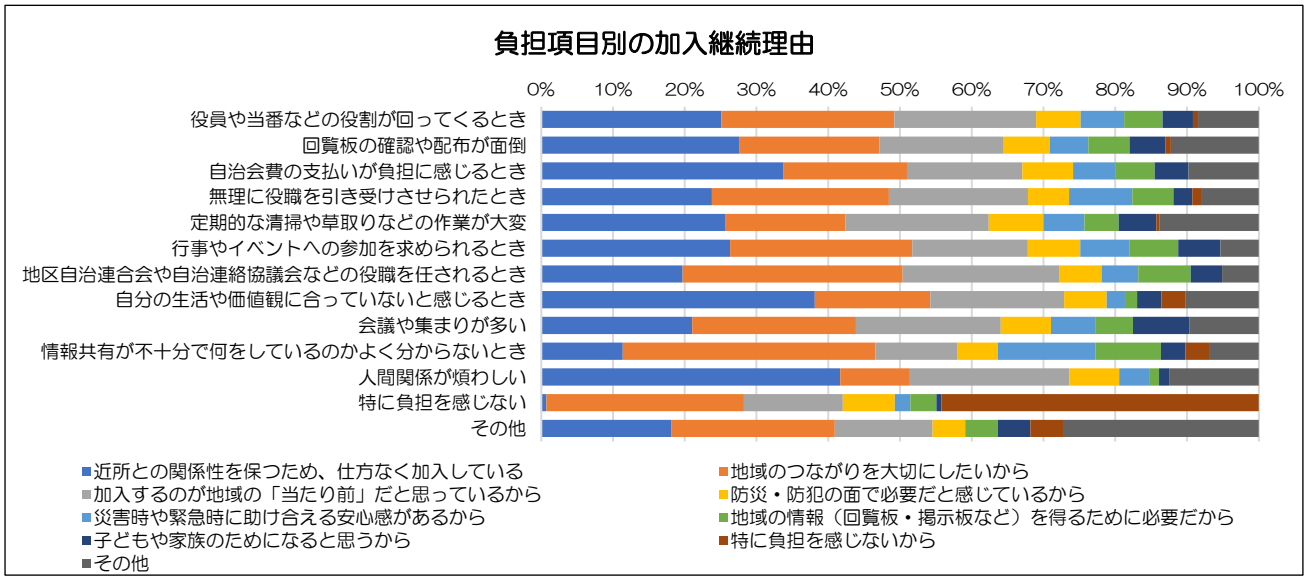
	人数	割合
地域のつながりを大切にしたいから	282 人	24.9%
近所との関係性を保つため、仕方なく加入している	239 人	21.1%
加入するのが地域の「当たり前」だと思っているから	203 人	17.9%
防災・防犯の面で必要だと感じているから	79 人	7.0%
特に負担を感じないから	69 人	6.1%
地域の情報（回覧板・掲示板など）を得るために必要だから	67 人	5.9%
災害時や緊急時に助け合える安心感があるから	65 人	5.7%
子どもや家族のためになると思うから	42 人	3.7%
その他 ・自治会に対する理解・納得のもとで加入を続けている ・ごみステーションの利用や地域ルールのために仕方なく加入している ・会費や役割の不満はあるが、やむを得ず加入を続けている ・近所や家族が加入しており、断りづらく自然に入っている ・自分の地域だけ特有の事情（少人数、役職の回り方、長年の習慣など） ・特に理由があるわけではない、流れで入っている ・地域全体の協調や円滑な関係のために、自発的に加入を続けている ・退会の手続きが不明であるため、加入を続けている　など	85 人	7.5%
合計	1,131 人	100.0%



最も多いのは「地域のつながりを大切にしたいから」で約３割を占めている。次いで「近所との関係性を保つため仕方なく」「地域の“当たり前”と思っている」が約２割で、加入継続の大きな理由となっている。一方で、「防災・防犯」「情報の入手」「安心感」「子どもや家族のため」といった理由は比較的少数となっている。

Q15×Q16 負担項目別の加入継続理由

	近所との関係性を保つため仕方なく	地域のつながりを大切にしたい	加入が地域の「当たり前」	防災・防犯で必要	災害・緊急時の安心感	地域情報を得るため	子どもや家族のためになる	特に負担を感じない	その他	合計
役員や当番などの役割が回ってくるとき	178 人	171 人	140 人	44 人	43 人	38 人	30 人	5 人	60 人	709 人
回覧板の確認や配布が面倒	72 人	51 人	45 人	17 人	14 人	15 人	13 人	2 人	32 人	261 人
自治会費の支払いが負担に感じるとき	86 人	44 人	41 人	18 人	15 人	14 人	12 人	0 人	25 人	255 人
無理に役職を引き受けさせられたとき	54 人	56 人	44 人	13 人	20 人	13 人	6 人	3 人	18 人	227 人
定期的な清掃や草取りなどの作業が大変	54 人	35 人	42 人	16 人	12 人	10 人	11 人	1 人	29 人	210 人
行事やイベントへの参加を求められるとき	54 人	52 人	33 人	15 人	14 人	14 人	12 人	0 人	11 人	192 人
地区自治連合会や自治連絡協議会などの役職を任されるとき	27 人	42 人	30 人	8 人	7 人	10 人	6 人	0 人	7 人	137 人
自分の生活や価値観に合っていないと感じるとき	45 人	19 人	22 人	7 人	3 人	2 人	4 人	4 人	12 人	118 人
会議や集まりが多い	24 人	26 人	23 人	8 人	7 人	6 人	9 人	0 人	11 人	114 人
情報共有が不十分で何をしているのかよく分からないとき	10 人	31 人	10 人	5 人	12 人	8 人	3 人	3 人	6 人	88 人
人間関係が煩わしい	30 人	7 人	16 人	5 人	3 人	1 人	1 人	0 人	9 人	72 人
特に負担を感じない	1 人	38 人	19 人	10 人	3 人	5 人	1 人	61 人	0 人	138 人
その他	4 人	5 人	3 人	1 人	0 人	1 人	1 人	1 人	6 人	22 人
合計	639 人	577 人	468 人	167 人	153 人	131 人	101 人	80 人	226 人	2,543 人

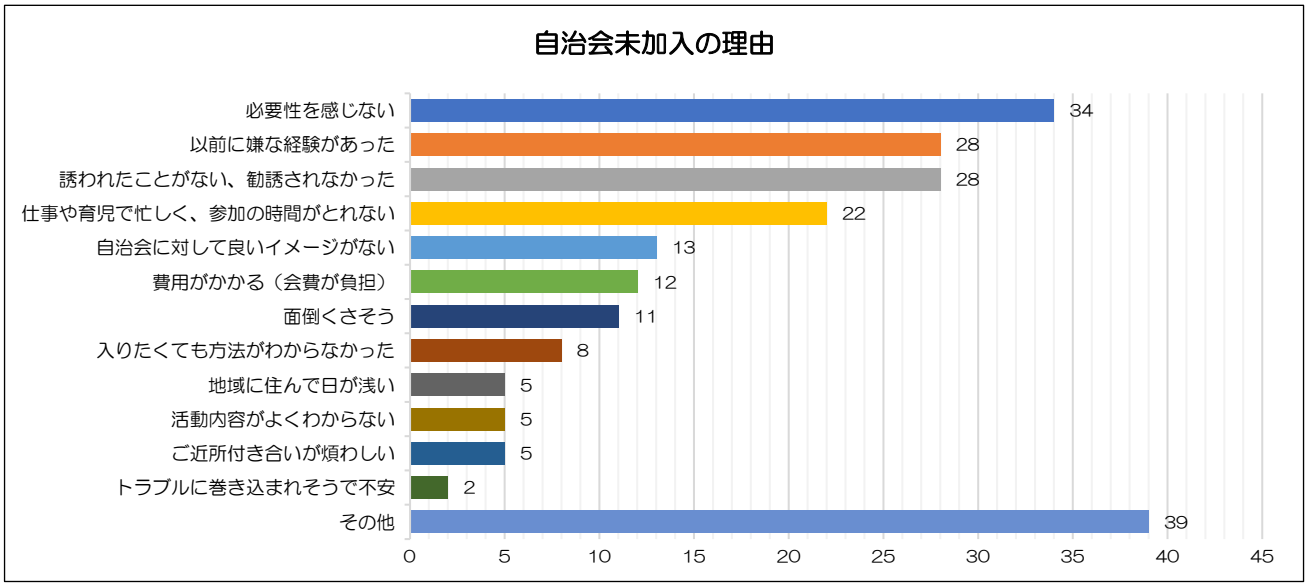


各負担項目とも、「近所との関係性を保つため仕方なく」「地域のつながりを大切にしたい」「加入が地域の『当たり前』」が主な継続理由となっている。特に「役員や当番などの役割が回ってくるとき」ではこの傾向が強く、負担が大きいにも関わらず地域のつながりを保つため加入を続けている様子がうかがえる。一方で、「人間関係が煩わしい」「価値観に合わない」といった質的な負担では、「仕方なく」が突出しており、消極的な継続理由が多くみられる。

第６章 未加入の実態と背景（Q18～Q20）

Q18 自治会未加入の理由

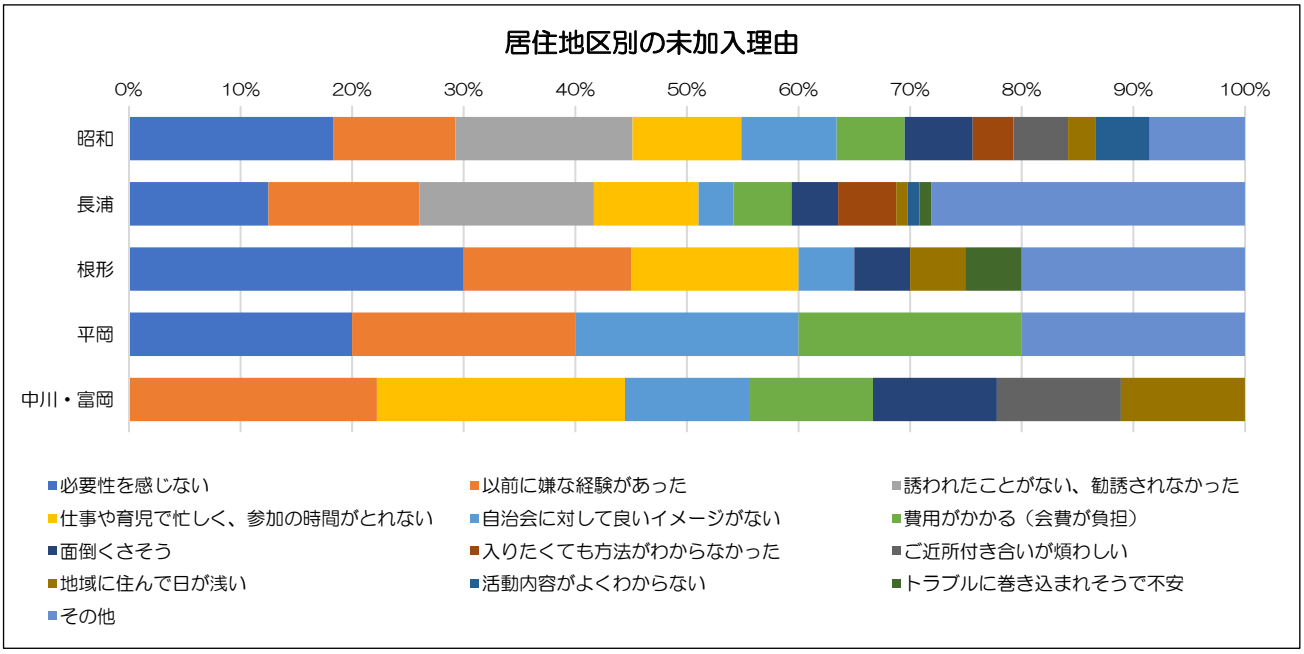
	人数	割合
必要性を感じない	34 人	16.0%
以前に嫌な経験があった	28 人	13.2%
誘われたことがない、勧誘されなかった	28 人	13.2%
仕事や育児で忙しく、参加の時間がとれない	22 人	10.4%
自治会に対して良いイメージがない	13 人	6.1%
費用がかかる（会費が負担）	12 人	5.7%
面倒くさそう	11 人	5.2%
入りたくても方法がわからなかった	8 人	3.8%
地域に住んで日が浅い	5 人	2.4%
活動内容がよくわからない	5 人	2.4%
ご近所付き合いが煩わしい	5 人	2.4%
トラブルに巻き込まれそうで不安	2 人	0.9%
その他 ・自治会が存在しない、加入できる仕組みがない ・自治会の区割りや仕組みが実情に合っていない ・管理会社や勤務先の方針で加入できなかった ・加入についての説明や案内がなかった ・自治会運営への不信感 ・個人的理由（病気）など	39 人	18.4%
合計	212 人	100.0%



最も多いのは「必要性を感じない」で約２割を占め、次いで「嫌な経験があった」「誘われなかった」「仕事や育児で忙しい」がそれぞれ１割を超えている。一方で「その他」も約２割あり、自治会そのものの仕組みや存在の有無など、個別の事情による未加入も一定数確認された。

Q18×Q3 居住地区別の未加入理由

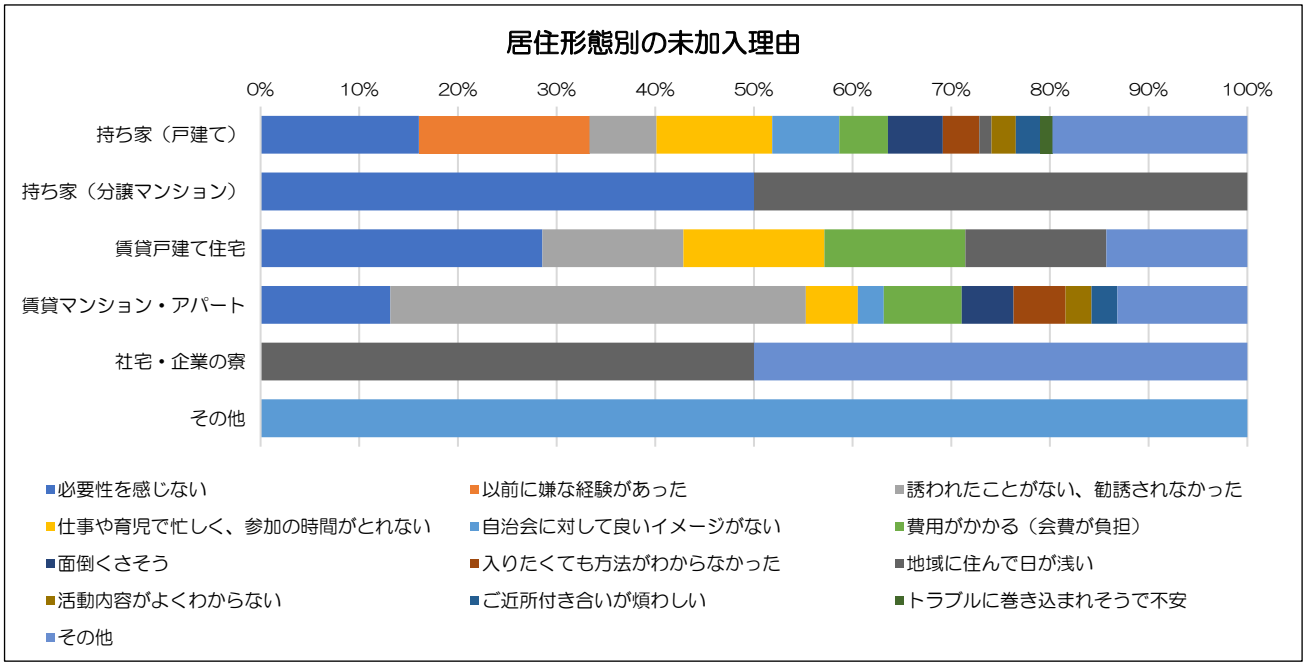
	昭和	長浦	根形	平岡	中川・富岡	合計
必要性を感じない	15 人	12 人	6 人	1 人	0 人	34 人
以前に嫌な経験があった	9 人	13 人	3 人	1 人	2 人	28 人
誘われたことがない、勧誘されなかった	13 人	15 人	0 人	0 人	0 人	28 人
仕事や育児で忙しく、参加の時間がとれない	8 人	9 人	3 人	0 人	2 人	22 人
自治会に対して良いイメージがない	7 人	3 人	1 人	1 人	1 人	13 人
費用がかかる（会費が負担）	5 人	5 人	0 人	1 人	1 人	12 人
面倒くさそう	5 人	4 人	1 人	0 人	1 人	11 人
入りたくても方法がわからなかった	3 人	5 人	0 人	0 人	0 人	8 人
地域に住んで日が浅い	2 人	1 人	1 人	0 人	1 人	5 人
活動内容がよくわからない	4 人	1 人	0 人	0 人	0 人	5 人
ご近所付き合いが煩わしい	4 人	0 人	0 人	0 人	1 人	5 人
トラブルに巻き込まれそうで不安	0 人	1 人	1 人	0 人	0 人	2 人
その他	7 人	27 人	4 人	1 人	0 人	39 人
合計	82 人	96 人	20 人	5 人	9 人	212 人



昭和地区と長浦地区では「必要性を感じない」「勧誘されなかった」「以前に嫌な経験」といった回答が中心となっている。特に長浦地区では「その他」が約３割を占め、地域の仕組みや個別事情に起因する未加入が目立っている。根形地区では「必要性を感じない」が３割と比較的多く、未加入理由の中心となっている。平岡地区や中川・富岡地区では特定の理由に偏らず少数ずつの回答となっているが、個々の事情による未加入がうかがえる。

Q18×Q4 居住形態別の未加入理由

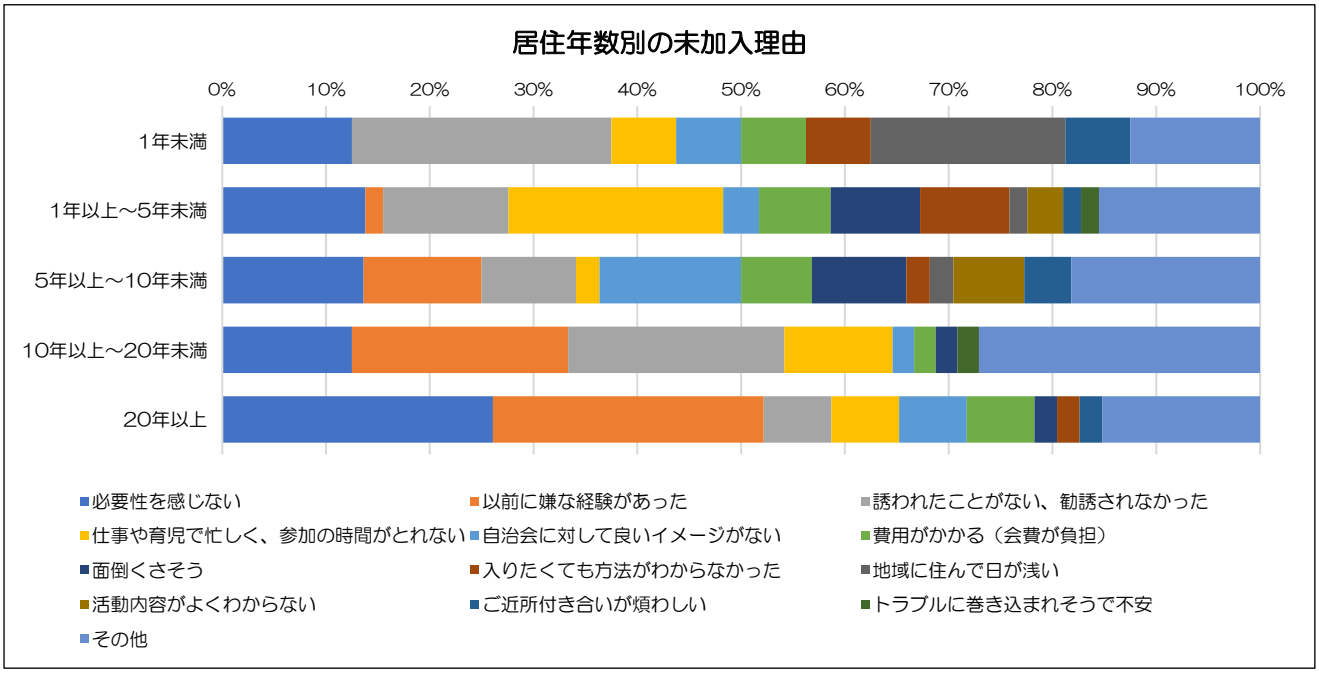
	持ち家（戸建て）	持ち家（分譲マンション）	賃貸戸建て住宅	賃貸マンション・アパート	社宅・企業の寮	その他	合計
必要性を感じない	26 人	1 人	2 人	5 人	0 人	0 人	34 人
以前に嫌な経験があった	28 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	28 人
誘われたことがない、勧誘されなかった	11 人	0 人	1 人	16 人	0 人	0 人	28 人
仕事や育児で忙しく、参加の時間がとれない	19 人	0 人	1 人	2 人	0 人	0 人	22 人
自治会に対して良いイメージがない	11 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人	13 人
費用がかかる（会費が負担）	8 人	0 人	1 人	3 人	0 人	0 人	12 人
面倒くさそう	9 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	11 人
入りたくても方法がわからなかった	6 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	8 人
地域に住んで日が浅い	2 人	1 人	1 人	0 人	1 人	0 人	5 人
活動内容がよくわからない	4 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	5 人
ご近所付き合いが煩わしい	4 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	5 人
トラブルに巻き込まれそうで不安	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人
その他	32 人	0 人	1 人	5 人	1 人	0 人	39 人
合計	162 人	2 人	7 人	38 人	2 人	1 人	212 人



持ち家（戸建て）では「必要性を感じない」「嫌な経験があった」が多く、未加入理由の中心となっている。賃貸マンション・アパートでは「勧誘されなかった」が最も多く、他に「費用がかかる」「入りたくても方法がわからなかった」なども一定数ある。その他の居住形態は回答数が少なく、理由も分散している。

Q18×Q7 居住年数別の未加入理由

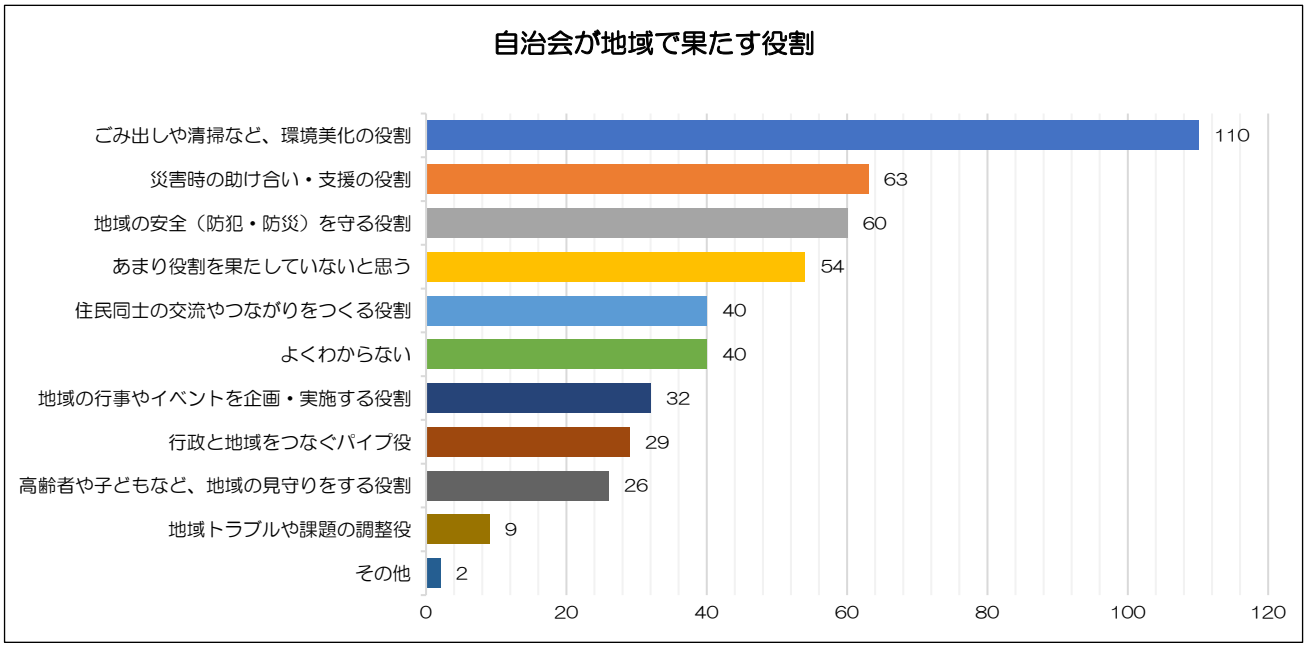
	1年未満	1年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上	合計
必要性を感じない	2人	8人	6人	6人	12人	34人
以前に嫌な経験があった	0人	1人	5人	10人	12人	28人
誘われたことがない、勧誘されなかった	4人	7人	4人	10人	3人	28人
仕事や育児で忙しく、参加の時間がとれない	1人	12人	1人	5人	3人	22人
自治会に対して良いイメージがない	1人	2人	6人	1人	3人	13人
費用がかかる（会費が負担）	1人	4人	3人	1人	3人	12人
面倒くさそう	0人	5人	4人	1人	1人	11人
入りたくても方法がわからなかった	1人	5人	1人	0人	1人	8人
地域に住んで日が浅い	3人	1人	1人	0人	0人	5人
活動内容がよくわからない	0人	2人	3人	0人	0人	5人
ご近所付き合いが煩わしい	1人	1人	2人	0人	1人	5人
トラブルに巻き込まれそうで不安	0人	1人	0人	1人	0人	2人
その他	2人	9人	8人	13人	7人	39人
合計	16人	58人	44人	48人	46人	212人



１年未満では「誘われたことがない、勧誘されなかった」が最も多く、「地域に住んで日が浅い」も一定数みられる。１年以上～５年未満では「仕事や育児で忙しく、参加の時間がとれない」が最多となっており、５年以上～１０年未満では「必要性を感じない」が最も多く、「以前に嫌な経験があった」「誘われたことがない、勧誘されなかった」が続いている。１０年以上～２０年未満では「以前に嫌な経験があった」と「誘われたことがない、勧誘されなかった」が多くを占め、２０年以上では「必要性を感じない」と「以前に嫌な経験があった」が最も多く、あわせて５割を超えており、長い居住期間での判断や経験が理由となっている。

Q19 自治会が地域で果たす役割【複数回答】

	回答数	割合
ごみ出しや清掃など、環境美化の役割	110 人	23.7%
災害時の助け合い・支援の役割	63 人	13.5%
地域の安全（防犯・防災）を守る役割	60 人	12.9%
あまり役割を果たしていないと思う	54 人	11.6%
住民同士の交流やつながりをつくる役割	40 人	8.6%
よくわからない	40 人	8.6%
地域の行事やイベントを企画・実施する役割	32 人	6.9%
行政と地域をつなぐパイプ役	29 人	6.2%
高齢者や子どもなど、地域の見守りをする役割	26 人	5.6%
地域トラブルや課題の調整役	9 人	1.9%
その他 ・行政が担うべき役割の代替になっていることへの疑問 ・自治会は時代錯誤で役割はない	2 人	0.4%
合計	465 人	100.0%

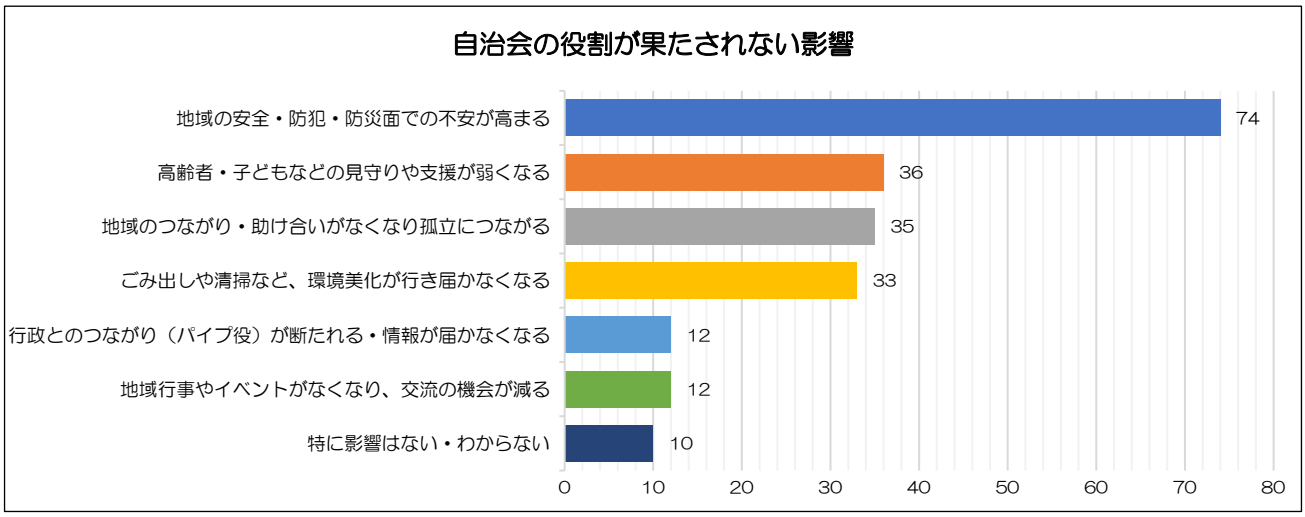


最も多いのは「ごみ出しや清掃など、環境美化の役割」で２割を超えており、次いで「災害時の助け合い」「地域の安全」が１割を超えている。一方で「役割を果たしていないと思う」「よくわからない」も約１割となっており、未加入者の中には役割を実感していない層も少なくない。「地域のイベント」「行政とのパイプ役」「見守り」といった役割は比較的少数となっている。

Q20 自治会の役割が果たされない影響

	回答数	割合
地域の安全・防犯・防災面での不安が高まる	74 人	34.9%
高齢者・子どもなどの見守りや支援が弱くなる	36 人	17.0%
地域のつながり・助け合いがなくなり孤立につながる	35 人	16.5%
ごみ出しや清掃など、環境美化が行き届かなくなる	33 人	15.6%
行政とのつながりが断たれる・情報が届かなくなる	12 人	5.7%
地域行事やイベントがなくなり、交流の機会が減る	12 人	5.7%
特に影響はない・わからない	10 人	4.7%
合計	212 人	100.0%

※自由記述の要旨を整理した結果

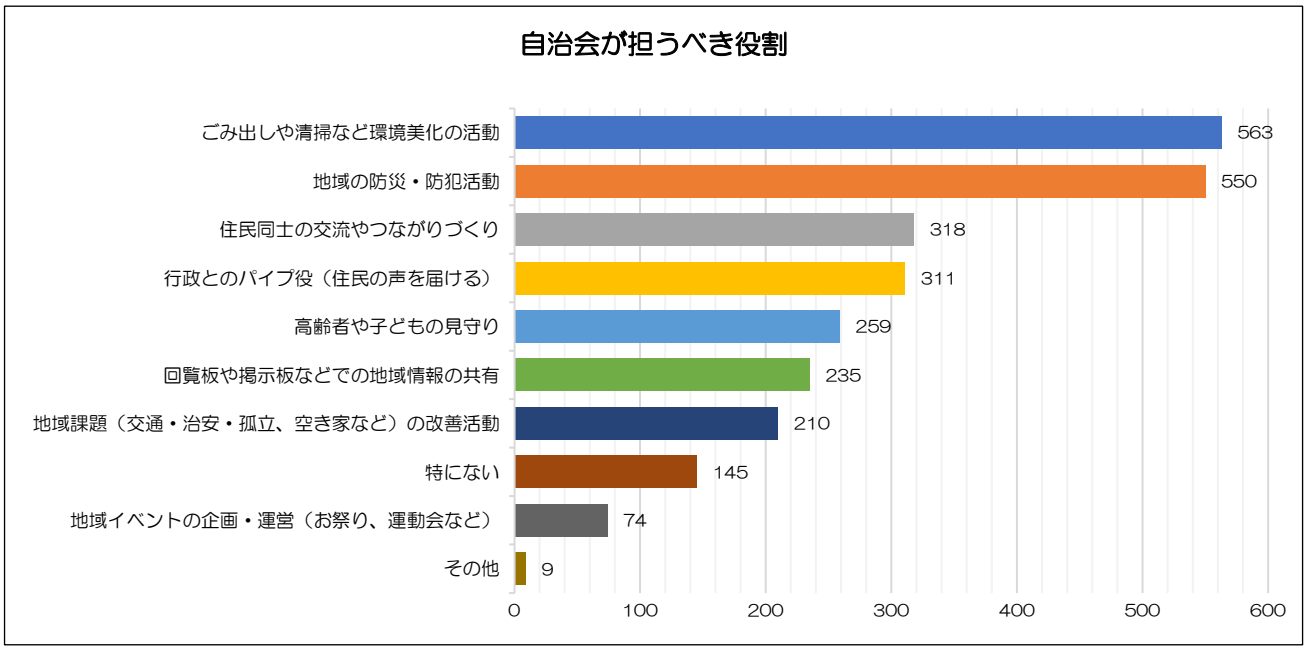


未加入者の回答でも、最も多かったのは 「防犯・防災への不安」(約 35%）であり、加入していなくても自治会を「地域の安心・安全の基盤」として認識していることが分かる。また「見守り」「つながり」「環境美化」など、日常生活に密着した役割も重視されており、未加入者も自治会の存在意義を一定程度評価していることが示唆される。一方で「特に影響はない」「わからない」という回答も少数ながら存在し、自治会の必要性を実感していない層も一部いる。

第７章 期待と評価（Q17）

Q17 自治会が担うべき役割【複数回答】

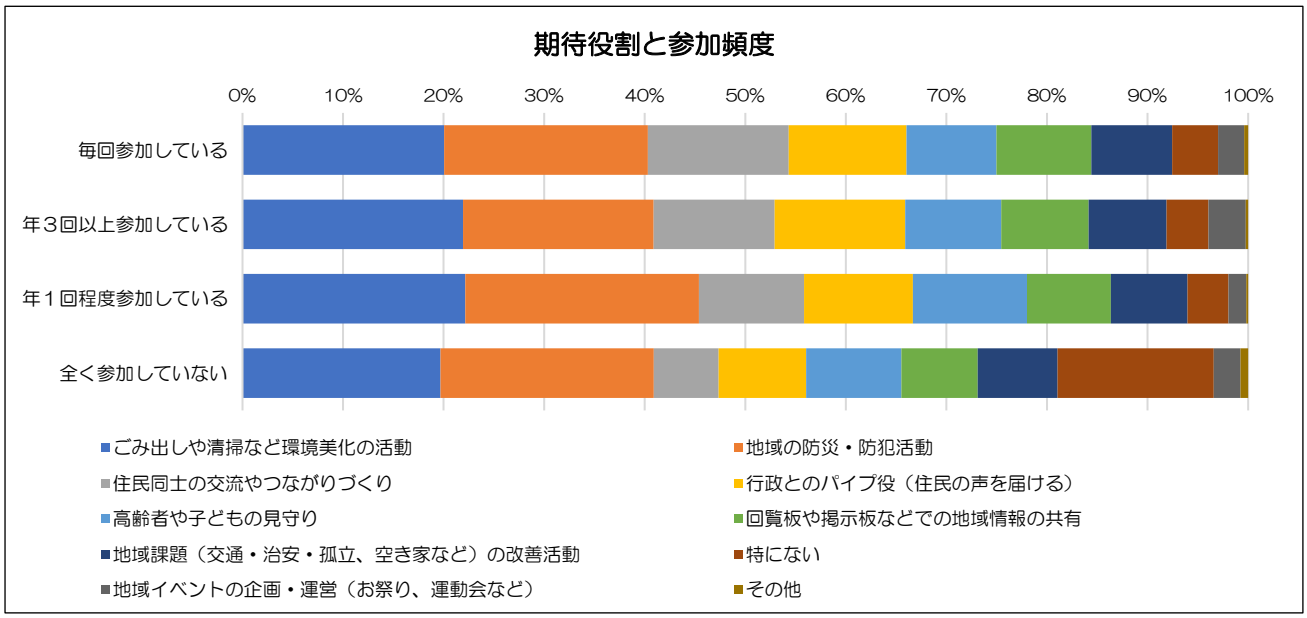
	回答数	割合
ごみ出しや清掃など環境美化の活動	563 人	21.1%
地域の防災・防犯活動	550 人	20.6%
住民同士の交流やつながりづくり	318 人	11.9%
行政とのパイプ役（住民の声を届ける）	311 人	11.6%
高齢者や子どもの見守り	259 人	9.7%
回覧板や掲示板などでの地域情報の共有	235 人	8.8%
地域課題（交通・治安・孤立、空き家など）の改善活動	210 人	7.9%
特にない	145 人	5.4%
地域イベントの企画・運営（お祭り、運動会など）	74 人	2.8%
その他 ・自治会は役割を終えており、行政が担うべき ・地域のつながりや支え合いを育む役割を期待する ・提示された役割すべてが当てはまる（限定できない） ・具体的なイメージがなく、よくわからない　など	9 人	0.3%
合計	2,674 人	100.0%



最も多いのは「ごみ出しや清掃など環境美化の活動」「地域の防災・防犯活動」で、ともに２割を超えている。次いで「住民同士の交流づくり」「行政とのパイプ役」が１割を超えており、「高齢者や子どもの見守り」「地域情報の共有」が続いている。一方で「地域イベントの企画・運営」は少数にとどまり、「特にない」も一定数みられる。

Q17×Q12 期待役割と参加頻度

	毎回参加している	年 3 回以上参加している	年 1 回程度参加している	全く参加していない	合計
ごみ出しや清掃など環境美化の活動	202 人	184 人	125 人	52 人	563 人
地域の防災・防犯活動	204 人	159 人	131 人	56 人	550 人
住民同士の交流やつながりづくり	141 人	101 人	59 人	17 人	318 人
行政とのパイプ役（住民の声を届ける）	118 人	109 人	61 人	23 人	311 人
高齢者や子どもの見守り	90 人	80 人	64 人	25 人	259 人
回覧板や掲示板などでの地域情報の共有	95 人	73 人	47 人	20 人	235 人
地域課題（交通・治安・孤立、空き家など）の改善活動	81 人	65 人	43 人	21 人	210 人
特にない	46 人	35 人	23 人	41 人	145 人
地域イベントの企画・運営（お祭り、運動会など）	26 人	31 人	10 人	7 人	74 人
その他	4 人	2 人	1 人	2 人	9 人
合計	1,007 人	839 人	564 人	264 人	2,674 人



「ごみ出しや清掃など環境美化」と「防災・防犯」は、参加頻度に関わらず多くの回答がみられ、自治会へ期待される役割として認識されている。一方で「住民交流」「行政とのパイプ役」「見守り」なども参加が多い層で一定数選ばれているものの、参加していない層では少ない傾向が見られた。また、「特にない」は「全く参加していない」層に多く、約 4 割を占めている。

Q17×Q19 期待と評価の比較

順位	Q17 自治会が担うべき役割	割合
1	ごみ出しや清掃など環境美化の活動	21.0%
2	地域の防災・防犯活動	20.6%
3	住民同士の交流やつながりづくり	11.9%
4	行政とのパイプ役（住民の声を届ける）	11.6%
5	高齢者や子どもの見守り	9.7%
6	回覧板や掲示板などでの地域情報の共有	8.8%
7	地域課題（交通・治安・孤立、空き家など）の改善活動	7.9%
8	特にない	5.4%
9	地域イベントの企画・運営（お祭り、運動会など）	2.8%
10	その他	0.3%
11	−	−

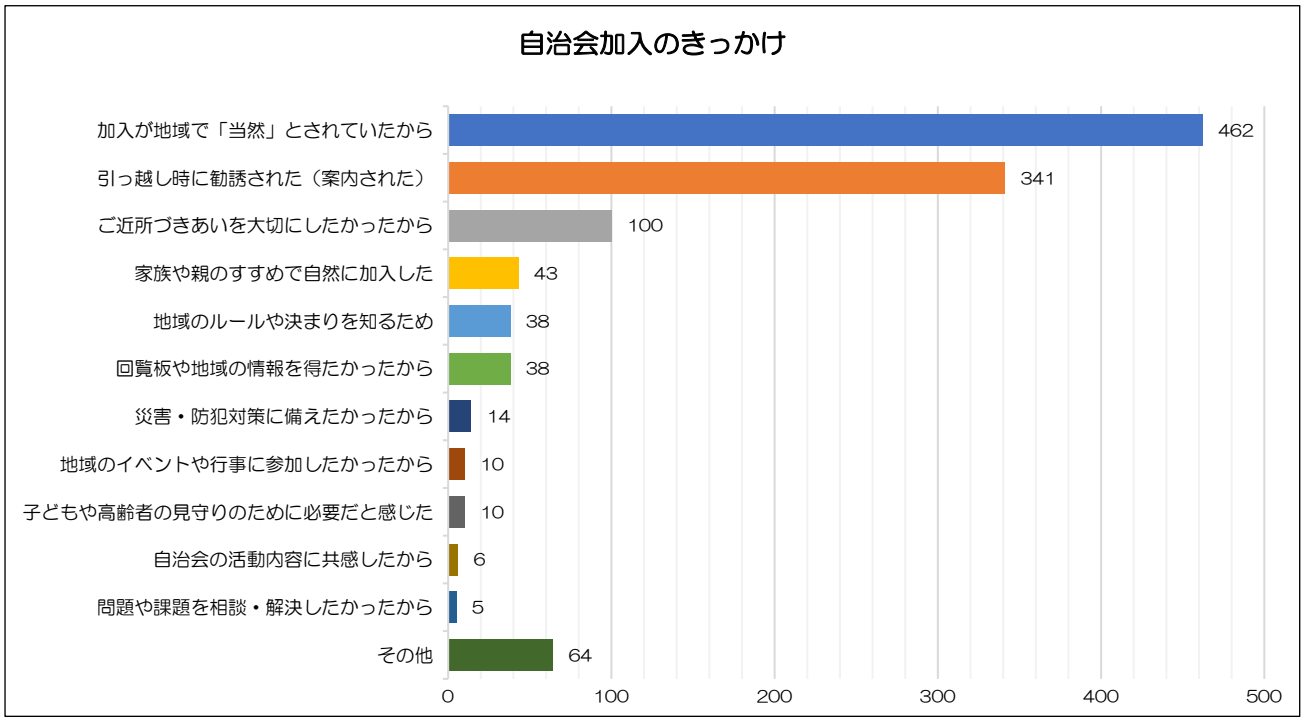
順位	Q19 自治会が果たしている役割	割合
1	ごみ出しや清掃など、環境美化の役割	23.7%
2	災害時の助け合い・支援の役割	13.5%
3	地域の安全（防犯・防災）を守る役割	12.9%
4	あまり役割を果たしていないと思う	11.6%
5	住民同士の交流やつながりをつくる役割	8.6%
6	よくわからない	8.6%
7	地域の行事やイベントを企画・実施する役割	6.9%
8	行政と地域をつなぐパイプ役	6.2%
9	高齢者や子どもなど、地域の見守りをする役割	5.6%
10	地域トラブルや課題の調整役	1.9%
11	その他	0.4%

「ごみ出しや清掃などの環境美化」は期待・評価ともに最上位、次いで「防災・防犯関連」で一致しており、自治会の中心的役割として認識されている。一方で「住民交流」「行政とのパイプ役」「見守り」などは期待に比べ評価が低い。

第８章 望ましい自治会像・加入動機（Q11･Q21～Q22）

Q11 自治会加入のきっかけ

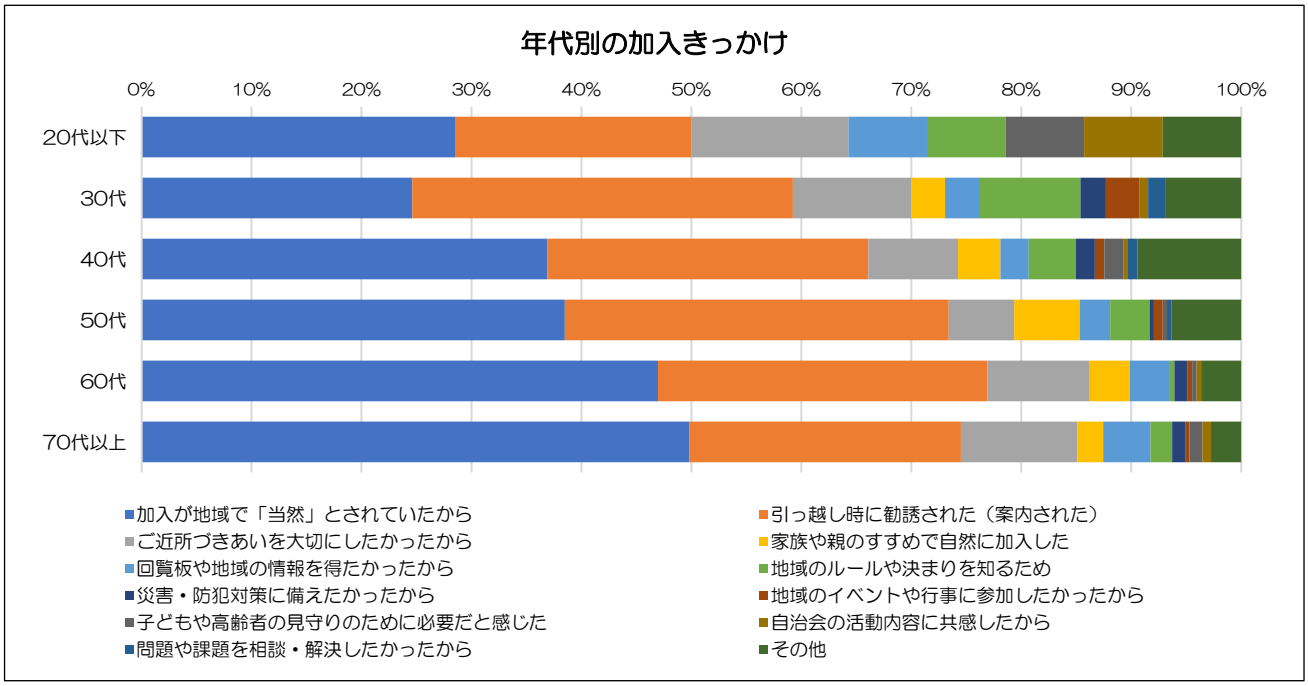
	人数	割合
加入が地域で「当然」とされていたから	462 人	40.8%
引っ越し時に勧誘された（案内された）	341 人	30.2%
ご近所づきあいを大切にしたかったから	100 人	8.8%
家族や親のすすめで自然に加入した	43 人	3.8%
地域のルールや決まりを知るため	38 人	3.4%
回覧板や地域の情報を得たかったから	38 人	3.4%
災害・防犯対策に備えたかったから	14 人	1.2%
地域のイベントや行事に参加したかったから	10 人	0.9%
子どもや高齢者の見守りのために必要だと感じた	10 人	0.9%
自治会の活動内容に共感したから	6 人	0.5%
問題や課題を相談・解決したかったから	5 人	0.4%
その他 ・ごみステーション利用するため ・学校や学区の都合で加入が必要だった ・建築契約や集合住宅の規約で加入が必要だった ・近所の人や自治会の人に勧誘され、強制的に加入となった など	64 人	5.7%
合計	1,131 人	100.0%



最も多いのは「加入が当然とされていたから」で４割を占め、地域での加入が慣習的に行われている実態が伺える。次いで「引っ越し時に勧誘された」が３割で、新規転入時の案内が加入契機として大きな役割を果たしている。一方で「ご近所づきあいを大切にしたい」「地域ルールや決まりを知るため」などは比較的少数であり、個人の主体的理由による加入は限定的である。

Q11×Q1 年代別の加入きっかけ

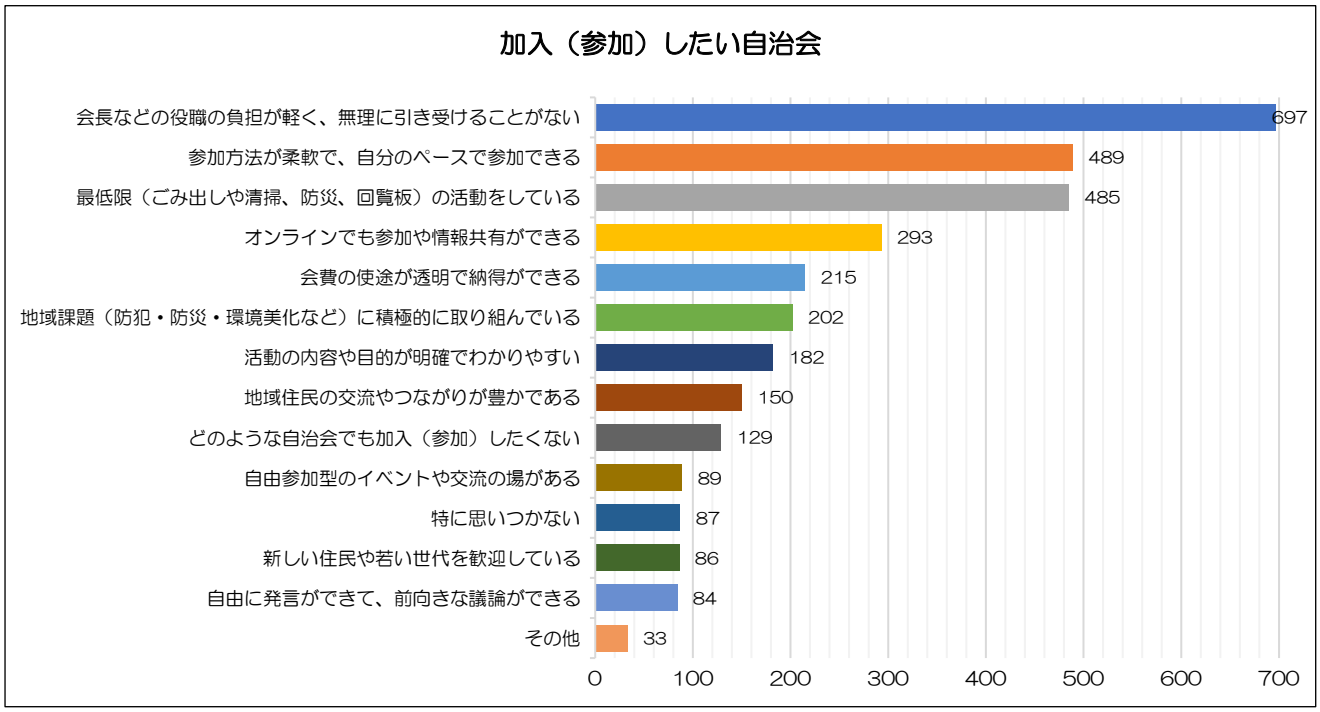
	20 代以下	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	合計
加入が地域で「当然」とされていたから	4 人	32 人	86 人	97 人	116 人	127 人	462 人
引っ越し時に勧誘された（案内された）	3 人	45 人	68 人	88 人	74 人	63 人	341 人
ご近所づきあいを大切にしたかったから	2 人	14 人	19 人	15 人	23 人	27 人	100 人
家族や親のすすめで自然に加入した	0 人	4 人	9 人	15 人	9 人	6 人	43 人
回覧板や地域の情報を得たかったから	1 人	4 人	6 人	7 人	9 人	11 人	38 人
地域のルールや決まりを知るため	1 人	12 人	10 人	9 人	1 人	5 人	38 人
災害・防犯対策に備えたかったから	0 人	3 人	4 人	1 人	3 人	3 人	14 人
地域のイベントや行事に参加したかったから	0 人	4 人	2 人	2 人	1 人	1 人	10 人
子どもや高齢者の見守りのために必要だと感じた	1 人	0 人	4 人	1 人	1 人	3 人	10 人
自治会の活動内容に共感したから	1 人	1 人	1 人	0 人	1 人	2 人	6 人
問題や課題を相談・解決したかったから	0 人	2 人	2 人	1 人	0 人	0 人	5 人
その他	1 人	9 人	22 人	16 人	9 人	7 人	64 人
合計	14 人	130 人	233 人	252 人	247 人	255 人	1,131 人



いずれの年代でも「地域で当然とされていた」「引っ越し時に勧誘された」が中心であり、特に６０代以上では「当然とされていた」が約半数を占めている。「ご近所づきあい」「地域のルールを知るため」などの比較的主体的な理由は３０代・４０代では一定数いるものの、全体的には限定的である。

Q21 加入（参加）したい自治会の条件【複数回答】

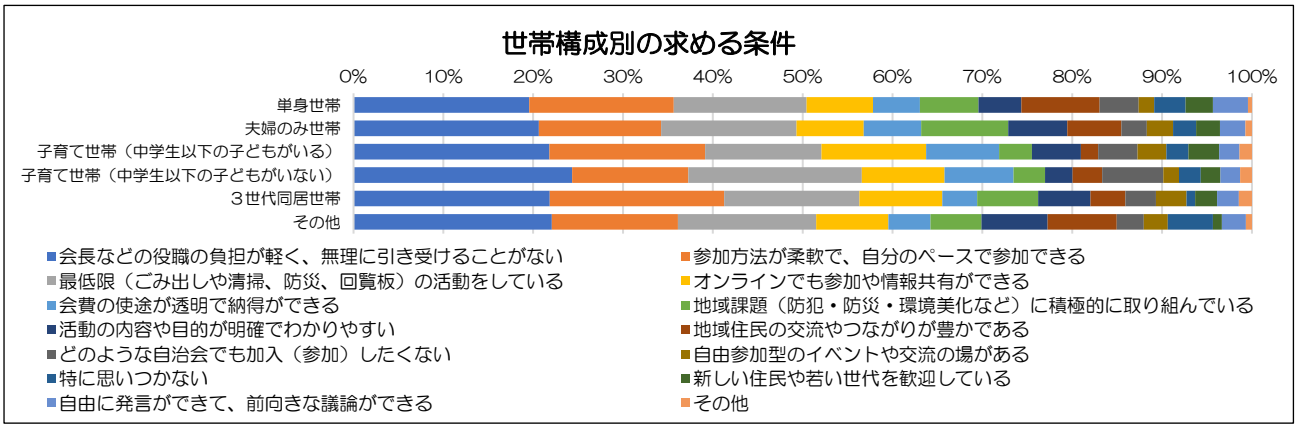
	回答数	割合
会長などの役職の負担が軽く、無理に引き受けることがない	697 人	21.6%
参加方法が柔軟で、自分のペースで参加できる	489 人	15.2%
最低限（ごみ出しや清掃、防災、回覧板）の活動をしている	485 人	15.1%
オンラインでも参加や情報共有ができる	293 人	9.1%
会費の使途が透明で納得ができる	215 人	6.7%
地域課題（防犯・防災、環境等）に積極的に取り組んでいる	202 人	6.3%
活動の内容や目的が明確でわかりやすい	182 人	5.7%
地域住民の交流やつながりが豊かである	150 人	4.7%
どのような自治会でも加入（参加）したくない	129 人	4.0%
自由参加型のイベントや交流の場がある	89 人	2.8%
特に思いつかない	87 人	2.7%
新しい住民や若い世代を歓迎している	86 人	2.7%
自由に発言ができて、前向きな議論ができる	84 人	2.6%
その他 ・会費が高すぎる、使い道が不明、もっと安く・納得できる会費にしてほしい ・自治会規模の見直し、身近な活動のアイデアなど具体的な提案 ・古い慣習や役割の見直し、そもそも自治会が不要と感じている ・ゴミ出しや清掃など、最低限の活動だけで十分だと考えている ・役職や当番の負担が大きいので、もっと軽くしたり希望者だけにしたい ・女性や高齢者、一人暮らし世帯など生活事情に配慮してほしい ・強制ではなく、自由に参加できる自治会がよい　など	33 人	1.0%
合計	3,221 人	100.0%



最も多いのは「役職の負担が軽く無理に引き受けることがない」で２割を超えており、負担感の軽減が最優先の条件となっている。次いで「自分のペースで参加できる」「最低限の活動をしている」が続いており、柔軟さや効率性を重視する傾向がみられる。一方で「交流」「イベント」「発言の自由」などは少数にとどまり、求められる条件は現実的なものが中心である。

Q21×Q6 世帯構成別の求める条件

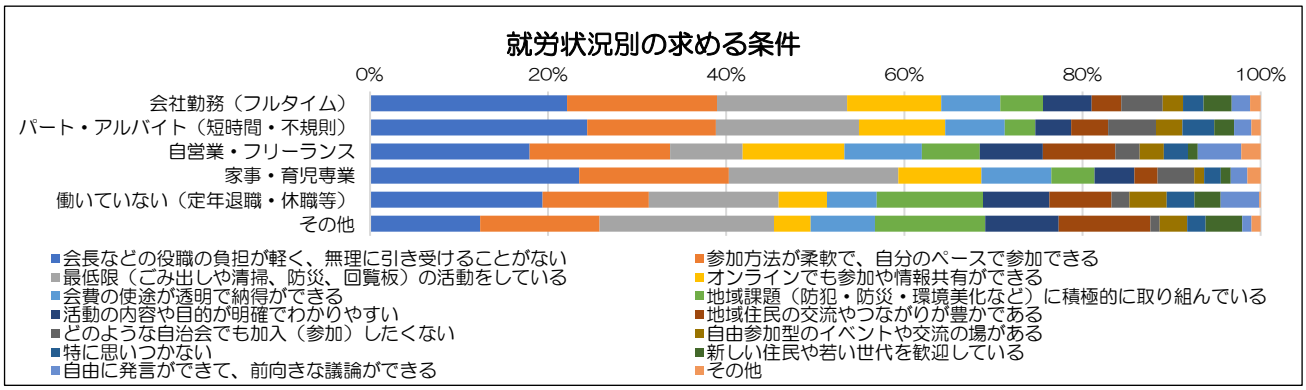
	単身世帯	夫婦のみ世帯	子育て世帯（中学生以下の子どもがいる）	子育て世帯（中学生以下の子どもがいない）	3世代同居世帯	その他	合計
会長などの役職の負担が軽く、無理に引き受けることがない	45 人	226 人	204 人	111 人	45 人	66 人	697 人
参加方法が柔軟で、自分のペースで参加できる	37 人	149 人	162 人	59 人	40 人	42 人	489 人
最低限（ごみ出しや清掃、防災、回覧板）の活動をしている	34 人	165 人	121 人	88 人	31 人	46 人	485 人
オンラインでも参加や情報共有ができる	17 人	82 人	109 人	42 人	19 人	24 人	293 人
会費の使途が透明で納得ができる	12 人	70 人	76 人	35 人	8 人	14 人	215 人
地域課題（防犯・防災・環境美化など）に積極的に取り組んでいる	15 人	106 人	34 人	16 人	14 人	17 人	202 人
活動の内容や目的が明確でわかりやすい	11 人	72 人	51 人	14 人	12 人	22 人	182 人
地域住民の交流やつながりが豊かである	20 人	66 人	18 人	15 人	8 人	23 人	150 人
どのような自治会でも加入（参加）したくない	10 人	31 人	41 人	31 人	7 人	9 人	129 人
自由参加型のイベントや交流の場がある	4 人	32 人	30 人	8 人	7 人	8 人	89 人
特に思いつかない	8 人	28 人	23 人	11 人	2 人	15 人	87 人
新しい住民や若い世代を歓迎している	7 人	29 人	32 人	10 人	5 人	3 人	86 人
自由に発言ができて、前向きな議論ができる	9 人	31 人	21 人	10 人	5 人	8 人	84 人
その他	1 人	8 人	13 人	6 人	3 人	2 人	33 人
合計	230 人	1,095 人	935 人	456 人	206 人	299 人	3,221 人



どの世帯構成でも「役職の負担軽減」が最も多く、特に夫婦のみ世帯や子育て世帯で突出している。子育て世帯ではこれに加え「柔軟な参加」や「最低限の活動」が比較的多く、時間的制約への配慮が重視されている。一方で、夫婦のみ世帯や３世代同居世帯では「地域課題への取組み」「交流」、単身世帯では「地域交流」にも一定数の回答がみられ、世帯構成による関心の違いが表れている。

Q21×Q8 就労状況別の求める条件

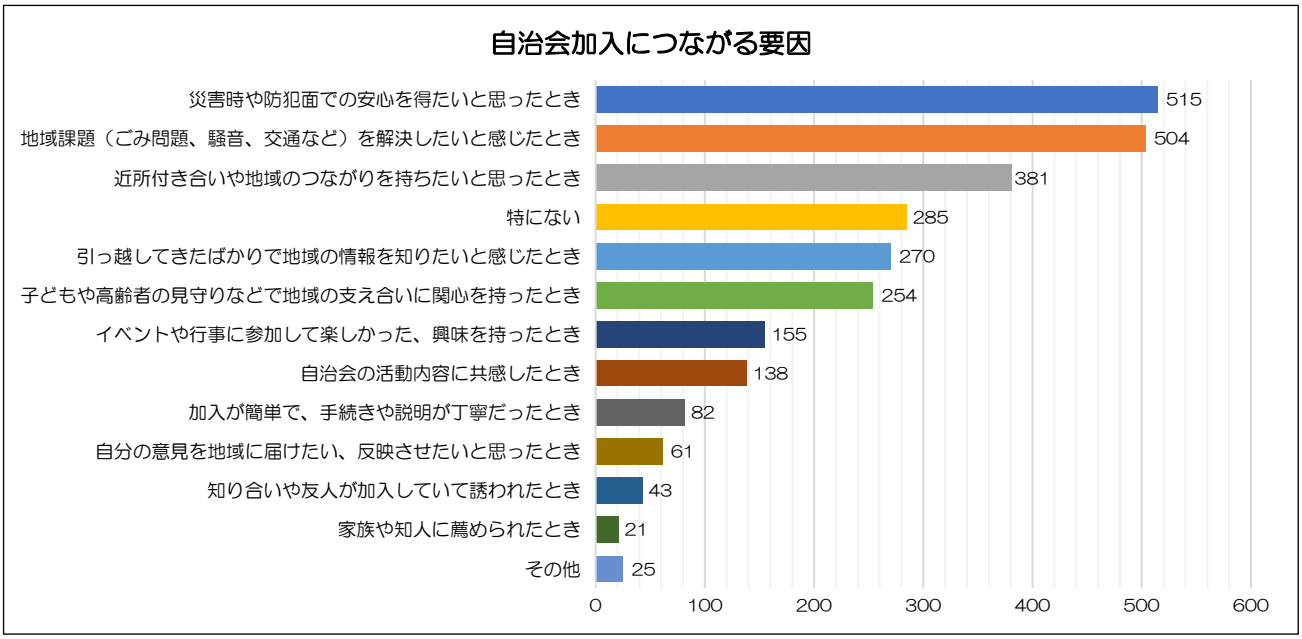
	会社勤務（フルタイム）	パート・アルバイト（短時間・不規則）	自営業・フリーランス	家事・育児専業	働いていない（定年退職・休職等）	その他	合計
会長などの役職の負担が軽く、無理に引き受けることがない	300 人	164 人	33 人	63 人	125 人	12 人	697 人
参加方法が柔軟で、自分のペースで参加できる	228 人	97 人	29 人	45 人	77 人	13 人	489 人
最低限（ごみ出しや清掃、防災、回覧板）の活動をしている	198 人	108 人	15 人	51 人	94 人	19 人	485 人
オンラインでも参加や情報共有ができる	143 人	65 人	21 人	25 人	35 人	4 人	293 人
会費の使途が透明で納得ができる	90 人	45 人	16 人	21 人	36 人	7 人	215 人
地域課題（防犯・防災・環境美化など）に積極的に取り組んでいる	65 人	23 人	12 人	13 人	77 人	12 人	202 人
活動の内容や目的が明確でわかりやすい	74 人	27 人	13 人	12 人	48 人	8 人	182 人
地域住民の交流やつながりが豊かである	45 人	28 人	15 人	7 人	45 人	10 人	150 人
どのような自治会でも加入（参加）したくない	63 人	36 人	5 人	11 人	13 人	1 人	129 人
自由参加型のイベントや交流の場がある	31 人	20 人	5 人	3 人	27 人	3 人	89 人
特に思いつかない	31 人	24 人	5 人	5 人	20 人	2 人	87 人
新しい住民や若い世代を歓迎している	43 人	15 人	2 人	3 人	19 人	4 人	86 人
自由に発言ができて、前向きな議論ができる	28 人	13 人	9 人	5 人	28 人	1 人	84 人
その他	16 人	7 人	4 人	4 人	1 人	1 人	33 人
合計	1,355 人	672 人	184 人	268 人	645 人	97 人	3,221 人



フルタイム勤務では「役職の負担軽減」「柔軟な参加」「最低限の活動」が多く、時間や負担への配慮が重視されている。パート・アルバイトや家事・育児専業、働いていない層でも同様の傾向だが、フルタイムに比べ「最低限の活動」への関心が相対的に高い。また、働いていない層では「防犯・防災や環境への取組み」といった地域課題への期待も目立ち、自営業では「オンライン参加」も一定数みられる。

Q22 自治会加入につながる要因【複数回答】

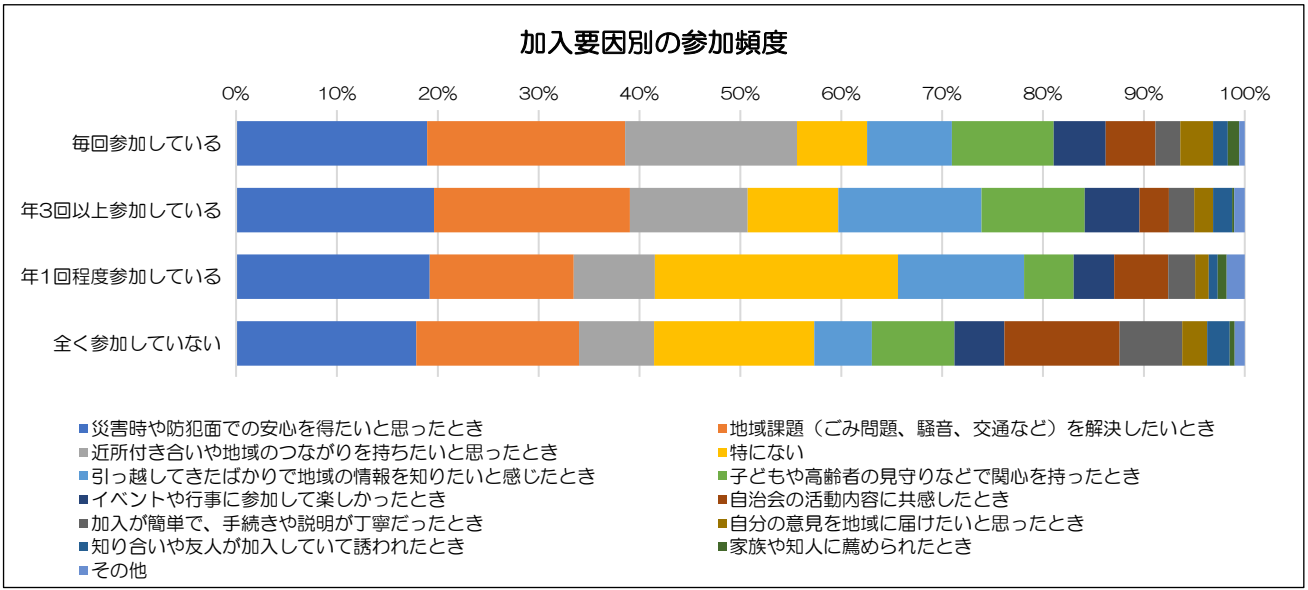
	回答数	割合
災害時や防犯面での安心を得たいと思ったとき	515 人	18.8%
地域課題（ごみ問題、騒音、交通など）を解決したいと感じたとき	504 人	18.4%
近所付き合いや地域のつながりを持ちたいと思ったとき	381 人	13.9%
特にない	285 人	10.4%
引っ越してきたばかりで地域の情報を知りたいと感じたとき	270 人	9.9%
子どもや高齢者の見守りなどで地域の支え合いに関心を持ったとき	254 人	9.3%
イベントや行事に参加して楽しかった、興味を持ったとき	155 人	5.7%
自治会の活動内容に共感したとき	138 人	5.0%
加入が簡単で、手続きや説明が丁寧だったとき	82 人	3.0%
自分の意見を地域に届けたい、反映させたいと思ったとき	61 人	2.2%
知り合いや友人が加入していて誘われたとき	43 人	1.6%
家族や知人に薦められたとき	21 人	0.8%
その他 ・ごみステーションの利用と加入の関係が明確で納得できるとき ・加入方法がわかりやすく丁寧に案内されたとき ・自治会の活動内容やメリットが明示されたとき ・会費が無料か少額であるとき ・自治会に対する不信感が払拭されて前向きな印象になったとき ・トラブルのない信頼できる自治会運営が行われているとき　など	25 人	0.9%
合計	2,734 人	100.0%



最も多いのは「災害時や防犯面での安心」で約２割、次いで「地域課題の解決」がほぼ同率で続いている。「近所付き合いやつながり」「地域情報を知りたい」「見守りへの関心」なども約１割あり、生活に直結する要素が多い。一方で「特にない」の回答も１割あり、加入のきっかけを明確に持たない層も少なくない。また、「イベントの楽しさ」「活動内容への共感」「加入のしやすさ」などは比較的少数であり、加入のきっかけとしては補助的な位置づけにある。

Q22×Q12 加入要因別の参加頻度

	毎回参加している	年 3 回以上参加している	年 1 回程度参加している	全く参加していない	合計
災害時や防犯面での安心を得たいと思ったとき	169 人	94 人	43 人	72 人	515 人
地域課題（ごみ問題、騒音、交通など）を解決したいとき	175 人	93 人	32 人	65 人	504 人
近所付き合いや地域のつながりを持ちたいと思ったとき	152 人	56 人	18 人	30 人	381 人
特にない	62 人	43 人	54 人	64 人	285 人
引っ越してきたばかりで地域の情報を知りたいと感じたとき	75 人	68 人	28 人	23 人	270 人
子どもや高齢者の見守りなどで関心を持ったとき	90 人	49 人	11 人	33 人	254 人
イベントや行事に参加して楽しかったとき	46 人	26 人	9 人	20 人	155 人
自治会の活動内容に共感したとき	44 人	14 人	12 人	46 人	138 人
加入が簡単で、手続きや説明が丁寧だったとき	22 人	12 人	6 人	25 人	82 人
自分の意見を地域に届けたいと思ったとき	29 人	9 人	3 人	10 人	61 人
知り合いや友人が加入していて誘われたとき	13 人	9 人	2 人	9 人	43 人
家族や知人に薦められたとき	10 人	1 人	2 人	2 人	21 人
その他	5 人	5 人	4 人	4 人	25 人
合計	892 人	479 人	224 人	403 人	2,734 人



「毎回参加」や「年 3 回以上参加」の層では、「災害・防犯の安心」や「地域課題の解決」をきっかけとした回答が多く、参加意欲の高さと結びついている。「年 1 回程度参加」の層では「特にない」が最も多い一方で、「災害・防犯の安心」「地域課題の解決」「地域情報を知りたい」といった回答も一定数あり、参加に結び付くきっかけが相対的に弱いことがうかがえる。「全く参加していない」層では「災害・防犯の安心」「活動内容への共感」といった回答が見られるが割合は低く、加入のきっかけが十分に参加には結び付いていない様子がうかがえる。

第９章 自由記述の総括（Q23）

Q23 自治会に関する意見・要望・提案

肯定的意見
・地域の安心・安全（防災・防犯）をみんなで守りたい ・住民交流や行事を通じて顔の見える関係をつくりたい ・会費や運営を透明化し、納得できる自治会をめざしたい ・若い人・新住民・高齢者に配慮し、参加しやすい仕組みをつくりたい ・子ども・高齢者の見守りを地域で支えたい ・地域課題解決や地域の魅力づくりに自治会を活かしたい ・自治会は必要だと感じており、最低限の機能は維持したい　など
否定的意見
・役員・班長・当番の負担が大きく、実質的に強制されており不公平が強い ・会費が高い、使途が不明、寄付の半ば強制的な負担など納得できない ・古い慣習・特定の人の独断、閉鎖的な運営に対する不信感 ・回覧板や紙配付が煩雑で時代に合っていない ・ゴミステーションのルールが徹底されず、不公平だと感じる ・本来行政が担うべきことを住民に押し付けられている ・自治会は不要、存続させる必要はない　など
要望
・会費の見直しと内訳を公開してほしい（透明化・適正化、寄付の扱いの明確な基準化） ・情報伝達のデジタル化を進めてほしい（LINE・HP・アプリ・オンライン回覧・電子決済） ・役割・会議を縮減し、一部を外部委託して負担軽減してほしい（清掃・集金・書類配布など） ・ゴミ関連の公平性を確保してほしい（未加入者の扱い、利用料、ルール周知、防犯カメラの設置など） ・高齢世帯・共働き世帯に配慮してほしい（免除ルール、時間配慮、オンライン委任、マニュアル整備） ・防災力の強化を図ってほしい（防災訓練・備蓄・名簿、見守りの仕組み、災害時の体制の明確化） ・市において補助制度の拡充や事例共有、回覧の市 HP の連動、未加入世帯へのルール周知リーフレット配布などを進めてほしい　など
提案
・運営の見直しを行う（会費、規約、役回り、班統合、世帯規模、運営の透明化） ・活動のスリム化・再設計する ・DX 推進を進める（回覧・集金・連絡のオンライン化、紙媒体との選択制） ・公平性を確保する仕組みを導入する（未加入者のルール化・費用負担の仕組み） ・参加は柔軟にできる形にする（可能な範囲で役割を担える形） ・「入りたい自治会」の可視化を進める（活動理念・計画・成果の公開、魅力づくりなど） ・自治会同士・社協・まち協との連携による相互補完を図る ・行事運営に配慮する（猛暑時の夏祭り、作業の外部委託など）　など
その他（※肯定・否定の評価とは直接結びつかない個別事象など）
・近隣トラブル、道路・街路樹・危険箇所のこと、家庭の事情、アンケートへの所感　など

否定的な意見が比較的多く、特に「負担の重さ」「強制感」「不公平感」といった批判が繰り返し示された。こうした背景から、自治会の存在意義自体に疑問を呈する声も一定数確認された。一方で、防災や地域交流など自治会の基本的な役割を評価し、安心・安全を守る仕組みとして活かしていきたいという前向きな意見も寄せられている。また、要望や提案では「会費・役割・情報伝達のあり方」といった具体的で実務的な改善策が数多く挙げられており、自治会の改善や見直しを求める住民の声が幅広く確認された。

自由記述をワードクラウドで可視化した結果、「役員」「加入」「回覧板」「負担」「会費」が特に大きく示され、自治会運営における役員や負担感、加入制度、情報伝達の方法、会費の在り方に多くの言及があったことが分かる。また「ゴミ」「ステーション」からごみ出しやごみステーションの利用に関する語のほか、「高齢化」「退会」など担い手不足に関連する語や、「地域」「清掃」「住民」といった交流や活動を表す語も一定数確認された。

※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析
（ https://textmining.userlocal.jp/ ）

第１０章 まとめ

1　調査の背景と意義

本調査は、自治会が地域社会において果たす多様な役割と、その現状や課題を住民の視点から把握することを目的として実施した。自治会は、防災・防犯活動、住民同士の支援、環境美化や地域行事など、地域生活の基盤を支える重要な役割を担ってきた。しかし近年、少子高齢化やライフスタイルの多様化、さらには地域への関心の変化を背景に、従来の「加入が当然」とされる自治会像が変化しつつある。

今回の調査を通じて、加入者・未加入者双方の意識や実態を把握することで、自治会が直面する課題を多角的に明らかにし、今後の地域コミュニティ施策を検討するための基礎資料を得ることができた。

なお、本調査は住民基本台帳から無作為に抽出して個別通知を行う形式ではなく、広報そでがうらやホームページのほか、ＬＩＮＥやＸなどのＳＮＳを通じて周知し、１８歳以上の市内在住者であれば誰でも回答できる形式で実施した。回答者の多くは自治会加入者であり、未加入者の回答は比較的少数にとどまった。未加入者は、関心が薄い、あるいは煩わしさを感じて回答を控えた可能性も考えられる。このことから、結果には加入者の意識が相対的に反映されている傾向がある点に留意が必要である。ただし一方で、少数ながら寄せられた未加入者の回答からは、制度的な障壁や運営への不信感といった課題を把握することができ、本調査の意義を補強するものとなっている。

➡ 課題：調査目的に掲げた「加入率低下の背景把握」「今後の施策の基礎資料化」に資する成果は得られたが、自治会が置かれている現状は複雑かつ多面的であり、課題解決に向けた総合的な検討が不可欠である。

2　加入状況とその背景

調査結果から、自治会の加入率には年代や居住形態による差が顕著に現れていることが確認された。高齢層ほど加入率が高い一方で、若い世代や新規転入世帯では未加入が目立ち、特に共働きや子育て世帯では時間的余裕のなさが背景にあることが示された。加入理由をみると、「地域で当然とされていた」「引越し時に勧誘された」といった慣習的・外発的な要因が中心であり、「地域の情報を得たい」「災害時に安心できる」といった主体的な動機は比較的少数にとどまった。また、継続理由については「地域のつながりを大切にしたい」「防災や防犯の安心感」といった肯定的な理由が多く見られた一方で、「ごみステーションの利用」「退会手続きが不明」「断りにくい雰囲気」といった消極的要因も一定数確認された。これらの傾向には、自治会の持続性が「慣習」と「制度的拘束」に依存している現状が表れている。

➡ 課題：加入や継続の基盤が「慣習」や「ごみ出し」などの消極的理由に依存しており、持続可能な加入の仕組みを再構築する必要がある。

3　未加入者の実態と認識

未加入の理由をみると、選択回答では「自治会の必要性を感じない」「会費が高い」「人

間関係が煩わしい」といった回答が多く、日常的な負担感や意義への疑問が主な要因となっていた。一方で自由記述からは、「役員の負担が大きい」「自治会が存在しない」「加入案内がなかった」といった制度的・構造的な要因も指摘されている。これに加えて「運営の不透明さ」「不公平感」「人間関係への不安」など、自治会そのものへの不信感も一定数確認された。しかし同時に、未加入者であっても「自治会がなくなれば防犯・防災に不安が高まる」「高齢者や子どもの見守りが弱くなる」といった認識を持っており、自治会の果たすべき役割について一定の理解を示している。つまり未加入者は、自治会の存在を全面的に否定している人がいる一方で、「加入の仕組み」や「運営の在り方」に疑問を抱いている人たちがいるといえる。これは、未加入者すべてを単なる「無関心層」とみなすのではなく、一部は「加入の条件や仕組みを改善すれば参加し得る潜在的加入層」として捉えることができる。

➡ 課題：未加入者が抱える「負担感」「制度的障壁」「不信感」を解消し、参加しやすい条件を整えることが不可欠である。

4　活動参加の実態と負担感

活動の中心は、清掃活動や回覧板、防災訓練、地域行事など身近な活動であり、役員経験者は活動参加が多い傾向が確認された。一方で、役員・班長・会計などの負担が大きいことが繰り返し指摘され、特に仕事や子育てとの両立が難しい世帯にとっては大きな負担となっている。また、会費についても「高い」「使途が不明」といった不満が散見され、透明性への要望が強い。さらに、退会が困難であることや、役員が半ば強制的に割り当てられる仕組みへの不満も根強い。これらの実態は、自治会が「負担が前提となっている仕組み」によって成立しており、そのことが住民の参加意欲を削ぐ一因となっていることを示している。

➡ 課題：役職・当番の負担軽減、会費・運営の透明化が参加促進のために急務である。

5　期待される役割と評価の差異

自治会の果たすべき役割については、回答者の多くが「防犯・防災」「高齢者や子どもの見守り」「ごみ出しや環境美化」といった生活に直結した領域を重視していた。これは、住民にとって自治会が生活の安心や安全を守る基盤であると認識されていることを意味する。また、「ごみ出しや清掃など環境美化」「災害時の助け合い」などは評価される一方で、「役割を果たしていない」「よくわからない」との回答も一定数見られた。こうした結果から、自治会に期待される役割と、未加入者が実際に評価している役割との間には、一致している部分がある反面、期待に比べ評価が低く、認識に差異が生じていることが示された。

➡ 課題：自治会に期待される役割が住民に正しく理解・評価されるよう、活動実態の周知や成果の可視化を進めることが求められる。

6　意見・要望にみる改善方向

設問結果からは、自治会の改善方向としていくつかの傾向が見られた。「加入して良かったこと」では、情報共有や交流、防災など生活基盤を支える機能への評価が寄せられた一方、「負担感」では役員や会費の重さ、退会のしづらさといった制度的な硬直性が課題

として浮かび上がった。また「継続理由」からは、ごみ出しや慣習といった消極的な要因に依存している実態が明らかとなり、「自治会の役割が果たされない場合」では、防災・防犯や見守り、地域交流の重要性が再認識された。これらを総合すると、自治会の改善には①役職や会議の負担軽減、②会費や運営の透明化、③情報伝達手段の柔軟化、④多様な世帯への配慮、といった方向性が不可欠であるといえる。さらに、自由記述全体でも、同様に「負担の軽減」「透明性の確保」「デジタル化の推進」「参加しやすい仕組みづくり」といった要望・提案が数多く示されており、住民の意識は設問回答と自由意見の双方から一貫して確認された。

➡ 課題：設問結果と自由記述の両面から、多くの住民が求めているのは『自治会をなくすこと』ではなく、『参加しやすく、納得できる仕組みへの改革』であることが確認された。したがって、住民の意識に沿った形で、負担軽減や透明性の確保など具体的な改革を進めていく必要がある。

7　総括

以上の分析から、自治会は依然として「地域の安心・安全・つながり」を支える存在として一定の期待を受けていることが確認された。しかし、その加入・参加の基盤は「ごみ出し」「慣習」「強制」といった消極的理由に大きく依存しており、このままでは持続性に限界がある。本調査を通じて得られた最大の収穫は、住民が自治会に抱く「評価」と「不満」が同時に存在していることを具体的に把握できた点にある。住民は自治会を不要と切り捨てているのではなく、「負担が軽く、透明で、参加しやすい自治会」であれば存在意義を認めている。この結果は、今後の地域コミュニティ施策を検討する上で重要な判断材料となるものであり、自治会を「維持するための仕組み」から「住民が参加したいと思える仕組み」へと転換するための議論を促すものである。

➡ 課題：自治会の存続を前提とするのではなく、「どうすれば住民が参加したいと思えるか」を出発点とする発想の転換が必要である。

8　今後の活用

本調査で得られた結果は、単に現状を確認するだけでなく、今後の地域コミュニティ施策を検討するための重要な資料となるものである。住民の意識や要望からは、自治会が担う役割の再整理、負担軽減と透明化、参加形態の柔軟化といった課題が明確に示された。

自治会は住民の自主的な組織であることから、その在り方や将来像を考えるのは地域住民自身の役割である。しかし市としても、地域の取組に寄り添い、住民の声を丁寧に受け止めながら共に課題を見つめ、必要な支援を行うことで、住民の主体的な活動を後押ししていくことが求められる。

・加入促進の支援：未加入者が指摘した「加入案内の不足」「制度的障壁」を踏まえ、地域と連携しながら、分かりやすい加入案内や仕組みづくりを後押しする。

・負担軽減の支援：役員の負担を軽減するため、回覧板など情報伝達や地域でのコミュニケーション、役職の引継ぎ作業などの DX 化を推進し、その導入を支えるとともに、充て職の見直しを検討する。

・透明性と信頼の確保：会費や活動内容について地域住民に分かりやすく説明できるよう、地域の工夫に寄り添い、市が必要に応じてサポートする。

・多様な世帯への配慮：高齢者や子育て世帯、単身世帯などの事情に応じた活動形態を尊重し、地域の取組を支えつつ柔軟な仕組みづくりを検討する。

・自治会活動の再定義：従来型の「当然加入」から脱却し、住民が共感し参加したいと思える自治会の姿を、市と地域で共に模索していく。

9　結び

本調査を通じて、自治会の現状と課題を幅広く整理することができた。自由記述の回答からは、役員や当番の負担、加入や会費の強制感、不透明な運営に対する不満など、現行制度が住民の生活実態や多様な価値観に十分対応しきれていない実態が明らかになった。一方で、防災・防犯や高齢者・子どもの見守り、住民交流の促進といった自治会の基本的な機能は依然として期待されており、地域の安心・安全を守る基盤としての役割が再確認された。さらに多くの自由記述では、単なる批判にとどまらず、会費の透明化、情報伝達のデジタル化、役割や行事の簡素化、未加入世帯との公平性確保など具体的な改善策や前向きな提案が示されており、住民が自治会の再設計に主体的に関わろうとしている姿勢もうかがえる。

こうした状況は、自治会が「無意味な組織」なのではなく、むしろ将来像を模索すべき転換点にあることを示していると考えられる。市としては、地域の自主性を尊重しつつも伴走者として寄り添い、必要な支援や環境整備を行うことで、自治会や地域活動が持続的に発展していくことを後押ししていくことが重要である。今回得られた知見を施策に反映し、自治会が「維持のための組織」から「住民が自ら参加したいと思える地域活動」へと変わっていく契機となることが期待される。

付録

・アンケート調査票

自治会に関するアンケート 調査票

Q1【年齢】　□20 代以下　□30 代　□40 代　□50 代　□60 代　□70 代以上

Q2【性別（任意）】□男性　□女性

Q3【居住地域】　□昭和地区　□長浦地区　□根形地区　□平岡地区　□中川・富岡地区
→ 大字を記入してください（　　）

Q4【居住形態】　□持ち家（戸建て）　□持ち家（分譲マンション）　□賃貸マンション・アパート
□賃貸戸建て住宅　□市営住宅・県営住宅　□社宅・企業の寮
□その他（自由記述）（　　）

Q5【世帯主区分】　□世帯主　□世帯主以外

Q6【世帯構成】　□単身世帯　□夫婦のみ世帯　□子育て世帯（中学生以下の子どもがいる）
□子育て世帯（中学生以下の子どもがいない）　□３世代同居世帯
□その他（自由記述）（　　）

Q7【居住年数】　□1 年未満　□1 年以上～5 年未満　□5 年以上～10 年未満
□10 年以上～20 年未満　□20 年以上

Q8【就労状況】　□会社などにフルタイムで勤務している　□自営業・フリーランス
□パート・アルバイトなどで勤務している（勤務時間は不規則または短時間）
□家事・育児専業　□現在は働いていない（定年退職、求職中、休職中）
□その他（自由記述）（　　）

Q9【現在、自治会に加入していますか？】 □はい　□いいえ　□以前加入していた

「はい」と回答した方は「Q10」へ　**「いいえ」又は「以前加入していた」と回答した方は「Q18」へ**

Q10【これまで自治会において、区長や会計、班長などの役職経験はありますか？】 □ある　□ない

Q11【自治会に加入したきっかけは何ですか？】（１つ選択）
□引っ越し時に勧誘された（案内された）
□加入が地域で「当然」とされていたから
□地域のルールや決まりを知るため
□地域のイベントや行事に参加したかったから
□子どもや高齢者の見守りのために必要だと感じた
□自治会の活動内容に共感したから
□家族や親のすすめで自然に加入した
□回覧板や地域の情報を得たかったから
□ご近所づきあいを大切にしたかったから
□災害・防犯対策に備えたかったから
□問題や課題を相談・解決したかったから
□その他（自由記述）（　　）

Q12【自治会の活動に参加していますか？】

□毎回参加している　□年３回以上参加している　□年１回程度参加している　□全く参加していない

「全く参加していない」と回答した方は「Q14」へ

Q13【どのような活動に参加したことがありますか？】（複数選択可）

□防災訓練　□災害時の備蓄管理や物資配布
□防犯パトロール　□交通安全の啓発活動
□清掃活動（ごみ拾い、草刈りなど）　□回覧板の配布・掲示板の管理
□地域のお祭りやイベントの運営・参加　□子ども会や高齢者向けの行事サポート
□自治会の会議や総会　□役員・委員としての活動（班長・会計など）
□その他（自由記述）（　　）

Q14【自治会に加入していてよかったと感じることはありますか？】（3 つまで選択可）

□地域の人とつながりができた　□地域行事（お祭り、清掃活動など）を楽しめる
□地域情報（回覧板やイベント）を得られる　□子どもや高齢者の見守り活動が安心につながっている
□災害時や緊急時に助け合える安心感がある　□防犯や防災などの取組に参加できる
□自分の意見や要望を地域に反映しやすい　□特にない
□その他（自由記述）（　　）

Q15【自治会に加入していて負担だと感じる時はどんな時ですか？】（3 つまで選択可）

□回覧板の確認や配布が面倒　□定期的な清掃や草取りなどの作業が大変
□行事やイベントへの参加を求められるとき　□自治会費の支払いが負担に感じるとき
□会議や集まりが多い　□役員や当番などの役割が回ってくるとき
□無理に役職を引き受けさせられたとき　□地区自治連合会や自治連絡協議会などの役職を任されるとき
□人間関係が煩わしい　□情報共有が不十分で何をしているのかよく分からないとき
□自分の生活や価値観に合っていないと感じるとき　□特に負担を感じない
□その他（自由記述）
（　　）

Q16【自治会に負担を感じることがあっても、加入を続けている理由はありますか？】（最も近いものを 1 つ選択）

□地域のつながりを大切にしたいから　□防災・防犯の面で必要だと感じているから
□子どもや家族のためになると思うから　□災害時や緊急時に助け合える安心感があるから
□加入するのが地域の「当たり前」だと思っているから　□近所との関係性を保つため、仕方なく加入している
□地域の情報（回覧板・掲示板など）を得るために必要だから　□特に負担を感じないから
□その他（自由記述）（　　）

Q17【自治会が担うべき役割は何だと思いますか？】（3 つまで選択可）

□地域の防災・防犯活動　□高齢者や子どもの見守り
□地域課題（交通・治安・孤立、空き家など）の改善活動　□ごみ出しや清掃など環境美化の活動
□行政とのパイプ役（住民の声を届ける）　□回覧板や掲示板などでの地域情報の共有
□地域イベントの企画・運営（お祭り、運動会など）　□住民同士の交流やつながりづくり
□特にない
□その他（自由記述）（　　）

自治会に加入している方は「Q21」へ

Q18【自治会に加入していない（以前加入していたが退会した）のはどんな理由ですか？】（最も近いものを 1 つ選択）

□仕事や育児で忙しく、参加の時間がとれない　□地域に住んで日が浅い（短期滞在の予定）

□入りたくても方法がわからなかった　□活動内容がよくわからない
□必要性を感じない　□誘われたことがない、勧誘されなかった
□費用がかかる（会費が負担）　□面倒くさそう
□ご近所付き合いが煩わしい　□若い人が少なくて入りづらい
□トラブルに巻き込まれそうで不安　□自治会に対して良いイメージがない
□以前に嫌な経験があった（例：無理な役を押し付けられた）
□その他（自由記述）
（　　）

Q19【自治会は地域でどのような役割を果たしていると思いますか？】（3 つまで選択可）
□地域の安全（防犯・防災）を守る役割　□災害時の助け合い・支援の役割
□ごみ出しや清掃など、環境美化の役割　□住民同士の交流やつながりをつくる役割
□高齢者や子どもなど、地域の見守りをする役割　□地域の行事やイベントを企画・実施する役割
□地域トラブルや課題の調整役　□行政と地域をつなぐパイプ役
□あまり役割を果たしていないと思う　□よくわからない
□その他（自由記述）
（　　）

Q20【自治会は前問のような役割を果たしています。こうした役割が地域で果たされなくなった場合、どんな影響があると思いますか？】（自由記述）
（
）

Q21【どのような自治会であれば加入（参加）したい、加入（参加）を続けたいと思いますか？】（3 つまで選択可）
□参加方法が柔軟で、自分のペースで参加できる
□オンラインでも参加や情報共有ができる
□会長などの役職の負担が軽く、無理に引き受けることがない
□活動の内容や目的が明確でわかりやすい
□会費の使途が透明で納得ができる
□地域課題（防犯・防災・環境美化など）に積極的に取り組んでいる
□最低限（ごみ出しや清掃、防災、回覧板）の活動をしている
□自由参加型のイベントや交流の場がある
□地域住民の交流やつながりが豊かである
□新しい住民や若い世代を歓迎している
□自由に発言ができて、前向きな議論ができる
□特に思いつかない
□どのような自治会でも加入（参加）したくない
□その他（自由記述）
（　　）

Q22【自治会に関心を持ち、加入（参加）してみようと思う「きっかけ」や「動機」には何が考えられますか？】（3 つまで選択可）
□災害時や防犯面での安心を得たいと思ったとき
□地域課題（ごみ問題、騒音、交通など）を解決したいと感じたとき
□子どもや高齢者の見守りなどで地域の支え合いに関心を持ったとき
□引っ越してきたばかりで地域の情報を知りたいと感じたとき
□加入が簡単で、手続きや説明が丁寧だったとき

□近所付き合いや地域のつながりを持ちたいと思ったとき
□知り合いや友人が加入していて誘われたとき
□家族や知人に薦められたとき
□自分の意見を地域に届けたい、反映させたいと思ったとき
□イベントや行事に参加して楽しかった、興味を持ったとき
□自治会の活動内容に共感したとき
□特にない
□その他（自由記述）（　　）

Q23【自治会に関するご意見・ご要望・ご提案などがあればご自由にお書きください】